

平成 30 年度 第 3 学年

授業シラバス・年間指導計画

Index

国語 P. 1 ~ P. 6

地歴・公民 P. 7 ~ P. 15

数学（理数） P. 16 ~ P. 25

理科（理数） P. 26 ~ P. 41

保健体育 P. 42

芸術 P. 43 ~ P. 47

英語 P. 48 ~ P. 55

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	現代文B (L・R)	2	普通科・ 理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	習熟度別	国語科		

教科書（発行所）	「現代文B」（数研出版株式会社）
教科書以外の教材（発行所）	「新訂国語図説三訂版」（京都書房） 「読解を深める現代文単語」（桐原書店） 「評論速読トレーニング1500」（数研出版） 「現代文グレートトレーニング40 レベル3」（尚文出版） 「マーク式問題集」（予定） 「記述式問題集」（予定）

目 標	近代以降の様々な文章を読み、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1. 評論 - 文章の論理展開の構造を把握し、その構造を読み解くことから筆者の主張を理解する。 - 自己と世界（社会）を取り巻く関係について意識的に考え、扱われている問題を自分の問題として捉えて筆者の洞察をふまえながら自分なりの見解を持つようにする。 2. 小説 - 優れた描写、効果的な表現について学んで言語感覚を磨き、想像力や感受性を豊かにする。 - 小説の構造・展開・主題の把握など小説を読む基本的な方法を学んで内容を理解し、その主題を自己の問題として捉え、新しい発見をしてゆく。 - 小説の虚構を通じて生の真実や人間の生き方について考える態度を養う。 - 場面の展開に即して作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。 - 積極的に読書を通して人生への関心を深め、自己の形成に資する態度を養う。 3. 問題演習 - 論理的文章の特徴を理解することによって、その理論展開と論旨を正確に理解する。適切な表現で、過不足なく答えを作る。 - 筆者の個性、論理性、文学史など関連事項を有機的に結びつけ、発展的にとらえる。		
定 期 考 査	出 題 方 針	教科書の内容を中心に、単語帳や教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	1 回 考 査	『文化が違う』とは何を意味するのか 「日本語は非論理的か」
		2 回 考 査	「赤い繭」 「朝のヨット」 「人はなぜ働かなければならないのか」
		3 回 考 査	「コピーの芸術」「顔の所有」 「入試問題演習（問題集・プリント）」
		4 回 考 査	「入試問題演習（問題集・プリント）」
評価の観点 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は、授業中での考察・ノート・課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習で、教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書等で確かめ、ノートに整理する。また「学習の手引き」等を考え、理解出来ない箇所を質問としてまとめる。授業中の要点・板書事項をノートに書き写す。他の生徒の発言にも注意しつつ、予習の疑問点の答えを整理する（赤字で訂正）。 復習として、その日のうちに再度教科書・ノートを確認、1000字でまとめる。単元の最後は2000字でまとめ、考えを深める。その上で、疑問点が解明されたか確認する。 なお、課題として配布している問題集は、自分の力で解答した上で解答と照らし合わせ、その際に解説をよく読み、理解を深めることが大切である。		

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	『文化が違う』とは何を意味するのか 「日本語は非論理的か」	8	・文章の内容を叙述に即して的確に読み取る能力を習得する。
	5		7	・文章の構成を確認し、表現の特色をとらえる。 ・言語としての日本語への興味や理解を深め、言語生活への関心を高める。
	6	「赤い繭」	8	< 1 回 考 査 > ・作中人物の行動・心理・性格を深く読み取り、作者のものの見方・感じ方を的確に理解し、自己のあり方や生き方について考える。
	7	「朝のヨット」	8	
	8	「人はなぜ働かなければならないのか」	8	・文章の論理的展開を追いながら、その論旨を正確に読み取る能力を身につける。
	9	「コピーの芸術」	8	< 2 回 考 査 > ・構成・展開を正しくとらえ、言語の使い方の特徴を知り、筆者の述べる内容についての考えを深める。 ・例を的確に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。
	10	「顔の所有」	8	
		「入試問題演習（問題集・プリント）」	4	・論理的文章を支える言葉を習得する。 ・読解のポイントをつかみながら解答するとともに、適切な表現で、過不足なく答えを作る。 ・全体の構成を把握し、論の展開に即して正確に内容を読み取る。
	11	「入試問題演習（問題集・プリント）」	19	< 3 回 考 査 >
	12 1			
後 期				< 4 回 考 査 >
		総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典B（L古文・R古文）	2	普通科・理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	習熟度別授業	国語科		

教科書（発行所）	「高等学校 古典B 古文編」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「基礎から解釈へ新しい古典文法四訂新版」（桐原書店） 「新訂 国語図説 三訂版」（京都書房） 「理解を深める核心古文単語 351」（尚文出版） 演習用問題集「入試につながる古文」（ラーンズ）

目 標	古典としての古文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 随筆 多様な文章表現のおもしろさを味わうとともに、当時の宮廷の生活や文化について知り、筆者の美意識や感性について理解を深める。 2 物語（一） 物語の展開や人間関係を把握し、登場人物の行動や心情を読み取るとともに、『源氏物語』を通して平安時代の社会や生活、信仰などを学び、歴史・文化に関する視野を広げる。 3 物語（二） 物語の構成や展開を把握し、登場人物の境遇や心情について読み味わうとともに、当時の社会・文化についての理解、歴史に対する興味を深め、歴史物語の特徴と文学史的意義を理解する。 4 評論 代表的な評論作品を読むことによって、和歌や物語についてのさまざまな見方、感じ方、考え方を理解し、関心を深める。 5 問題演習 入試に必要な力を養うことを目的として、問題演習に取り組む。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、便覧、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	1 回考査	『枕草子』
		2 回考査	『源氏物語』
		3 回考査	『大鏡』『評論』
		4 回考査	問題演習
評価の観点 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。全体の評価は、古文・漢文を総合したものである。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	予習・授業・復習を確実に行うことが大切である。予習として本文を読み、重要語句を調べ、口語訳をつけてくることが必須条件である。調べてもわからない点については、授業で特に気をつけて学習し、授業で学んだことはできる限りその場で覚えるという姿勢を持つこと。その上で、復習を繰り返すことが肝要である。文法事項のほとんどはすでに学習しているので、基礎基本を繰り返し復習し、定着を図ることが大切である。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	曜	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	随 筆	『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」 「頭の弁の、職に参り給ひて」	1 0	・多様な文章表現のおもしろさを味わう。 ・当時の宮廷生活や文化について知り、筆者の美意識や感性を理解する。 ・紛らわしい助動詞や注意すべき助詞や敬語の使い方を学び、解釈に生かす。
	5		《1 回考査》		
	6	物 語 一	『源氏物語』 「廃院の怪」 「車争ひ」 「心づくしの秋風」 「明石の姫君の入内」	2 4	・物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情について読み味わう。 ・日本を代表する名著である『源氏物語』の作品世界を理解する。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。
	7		《2 回考査》		
	8 9	物 語 二	『大鏡』 「東風吹かば」 「宣耀殿の女御」 「伊周・隆家」 「肝試し」	1 2	・物語の構成や展開を把握し、登場人物の境遇や心情について読み味わう。 ・歴史物語の特徴と文学史的意義を理解する。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。
後 期	10	評 論	『古今和歌集仮名序』 『無名抄』 『去来抄』 『源氏物語玉の小櫛』	1 2	・評論を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・和歌に対する古人のものの見方・感じ方の特色を知る。 ・古人の書いた評論にふれることで、和歌や物語について、新しい視点から読み
	11		《3 回考査》		
	12 1		問題演習 《4 回考査》 問題演習	2 0	・語句や文法事項、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。
総 時 間 数				7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国語	古典（漢文L・漢文R）	1	普通・理数科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	習熟度別授業	国 語 科		

教科書（発行所）	「高等学校古典B 漢文編」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「新訂 国語図説 三訂版」（京都書房） 「精説漢文」（いいづな書店）

目 標	古典としての漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。		
学習のねらい	1 一 史伝（一） ・語られる事件の展開を把握し、登場人物の言動や心情について理解する。 ・歴史的エピソードを描くさまざまな作品に触れ、歴史的人物像の面白さを味わう。 2 三 小説 ・正確な本文の読解を基に、起伏に富んだストーリー展開のおもしろみを味わう。 ・登場人物や作品に表れた当時の人々のものの見方・感じ方・考え方について理解する。 3 四 史伝（二） ・語られる事件の展開を把握し、登場人物の言動や心情について理解する。 ・よく知られた歴史的エピソードの原文に触れ、作品世界の面白さを味わう。 4 思想 ・簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容を的確に読み取る。 ・個々の相違を意識しながら、それぞれの思想家の主張を理解する。 ・さまざまなジャンルに属する文章に読み慣れることによって、漢文表現全般への理解力や読解力を総合的に高める。 ＊一部問題演習等を並行して行うことによって、読み取った事柄を正確に表現したり記述したりする力を養う。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、適宜、課題（参考書など）からも出題する。	
	範 囲 （予定）	1回考查	「乱世之姦雄」他
		2回考查	「人面桃花」他
		3回考查	「史記－完璧帰趙」他
		4回考查	「出藍誉」「胡蝶之夢」演習に用いた問題
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考查を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。評価は、古文・漢文を総合して「古典B」として行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○しっかり音読すること。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習の際の疑問点を、授業で解明するつもりで臨む。 ○重要句法・語法については、完璧を期して繰り返し復習をする。 ○後期から本格的な入試問題演習に入る。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	史 伝	「乱世之姦雄」 「左右莫敢近者」 「髀肉皆消」	4	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・文章表現や論理の展開、作者の意図や心情について、話の展開に即して読みとる。 ・漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・作品の背景を知り、主題を考える。
	5		<1回考查>		
	6	小説・史伝 （二）	「人面桃花」	8	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・ストーリーの展開に即して、登場人物の行動や心情について読みとる。 ・漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・登場人物の行動や心情の背後にある当時の人々のものの見方や感じ方について理解する。
	7		史記 「完璧帰趙」		
	8		<2回考查>		
	9	史伝 （二）	史記 「滹池之会」 「刎頸之交」	8	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・登場人物の関係を把握し、それぞれの行動とその意図、心情について、話の展開に即して読みとる。 ・漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・作品の背景を知り、主題を考える。
後 期	10	思想	孟子 「何必曰利」 <3回考查>	9	・漢文の基本構造を意識しながら訓読する。 ・漢文特有の語法や句法に留意し、口語訳する。 ・話や論理の展開、出来事と出来事の因果関係などを正確に把握する。 ・個々の相違を意識しながら、それぞれの思想家の主張を理解する。 ・左記の教材を利用して適宜問題演習を行い、入試問題等への対応力を養う。
	11		荀子 「出藍誉」 老子・莊子 「胡蝶之夢」他		
	12		<4回考查>		
	1		問題演習	10	・問題集を利用し、演習を重ねることにより、センター試験などに対応できる力を養成する。
			<年度末評価>		
			総時間数	39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国 語	評論研究	1	普通科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選択	一 斉 授 業	国語科		

教科書（発行所）	「テーマ詳説 現代評論選」（数研出版編集部）
教科書以外の教材（発行所）	「テーマ詳説 現代評論選準拠ノート」（数研出版編集部） 学習補助プリント（指導者作成）

目 標	評論文を読むことを通して、構成や主題をとらえ筆者の主張を的確に理解する能力を養い、自己のものの考え方をとらえ方を深め、論理的に表現できる力を養う。		
学習のねらい	1 現代評論を読んで行く上で欠かせないさまざまな抽象語彙や評論文頻出の用語、分野ごとの術語（テクニカルターム）について、その意味や背景的知識を身に付ける。 2 さまざまなテーマごとに現代の評論がどのような問題を どのような視点から取り上げ、どのような論じ方をしているのか、その特徴・傾向について理解する。 3 文章ごとの構成や論旨を的確につかみ、文章全体を、問題提起、具体例、論証、主張、結論の各部に区別しつつ読解して行く力を養う。 4 さまざまな分野で現代という時代が直面している問題や課題の内容を理解し、その解決に向けて何をどのように考えていけばよいのか、思考の方法を身に付ける。 5 さのざまな評論文を読んで自分が理解したこと、考えたこと等を論理的に表現し記述する能力を養う。		
定 期 考 査	出題	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	2 回 考 査	* 授業時間内で実施する。 未読のオリジナルの記述式問題を出題する。
		4 回 考 査	* 授業時間内で実施する。 未読のオリジナルの記述式問題を出題する。
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○ 具体的な評価は、授業の中での発表，課題提出および定期考査などを資料として総合的に行う。		
先生からの アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	一つ一つの文章を授業で細かく読むことはしない。従って次のような学習を心がけてもらいたい。 ① 文章を家庭で各自熟読する→準拠ノートを用いて。 ② 不明の語句の意味を調べる。 ③ 各段落の要旨のまとめを考える。 ④ 基礎的な設問を解く。 ⑤ 記述式の問いに対する自分の答えを書くことで、文章上の要点を理解する。 ⑥ 授業による答え合わせや解説を聞くことで、文章の構成や論旨、主張等について理解を深める。 ⑦ 筆者の論述内容について各自の意見をまとめる。時には準拠ノートを提出して添削指導を受ける。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	曜	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前	4	言語	「言語学とは何か」	3	1 評論読解の基礎となるさまざまな語彙、用語、術語等を理解する。
	5	科学	「活字中毒患者は電子書籍で本を読むか」	3	
			「なんとなく、日本人」	3	2 それぞれの評論に対して、取り上げられた問題点や論じ方の特徴について理解する。
		情報	「社会に生きる科学」	3	
	6	国際	「群衆の生成と消滅」	3	3 文章を問題提起、具体例、論証、主張、結論などの各部に区分しつつ、文章全体の構成や論旨をとらえる。
			「美学への招待」	3	
期	7	社会	「近代化と世間」	3	4 それぞれの評論から、それぞれの分野の今日的課題を見いだし、課題を追求していくための論理の思考の方法を身に付ける。
			《2回考査》		
	8		「安楽への隷属を拒め」		5 それぞれの評論文に対する理解や自らの考えを論理的に表現する。
	9	芸術	「集団への個の解体」	2	
			「想像力」	3	
	10	文化	「終わりなき差異化と模倣の反復」	3	
			「日本語の国際性」	3	
			「メディアと倫理」	3	
後	11	思想	「文明の矛盾」	3	
			「グローバリズムとニヒリズム」	3	
		文学	「感性は感動しない」		
	12		《4回考査》		
			「千利休と蹲るということ」		
			「顔の現象学」		
期	1	総合	*以下、投込み教材	4	
	2		「日本の反知性主義」他		
			総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国 語	古典B（古典B L）	1	普通科 （文系選択）	3
履修形態		授 業 形 態		指 導 者 名
選 択		習熟度別授業		国語科

教科書（発行所）	「高等学校古典B古文編」（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「古典読解問題―基礎編」（駿台文庫）、「基礎から解釈へ新しい古典文法四訂新版」（桐原書店）、「知識から文脈へ理解を深める精説漢文」（いっずな書店）、「新訂国語図説」（京都書房）

目 標	古典に親しむことによって、古文漢文の基礎を確実に身につけさせるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げる態度を育てる。 また、古典作品に対する関心を深め、国語力の向上を図るとともに、問題演習を重ねることによって、大学入試に対応できる力を養成する。		
学習のねらい	・既習の文法事項への理解を深める。 ・作品の特性を理解し、読解に生かす。 ・叙述に即して作品の内容を的確に捉える。 ・作品の読解を通して、その時代に生きた人々の生活・思想・心情を理解する。		
定期考查	出題方針	問題集の内容を中心に、課題などからも出題する。	
	範 囲 （予定）	2 回 考 査	「しみのすみか物語」「蜻蛉日記」「今物語」など
		4 回 考 査	「沙石集」「枕草子」「韓非子」など
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考查を中心に、授業の中での考察・小テスト・課題・ノート提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をしてくること。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をすること。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	読本	「しみのすみか物語」	2	・各教材について、主体的・発展的に取り組む。 ・叙述に即して、文章の内容を的確に捉える。 ・様々な文章に触れ、それぞれの文章表現の特色を理解する。 ・作品の特性を理解して、作品の構成・展開や内容を読み取る。 ・作品の成立背景を知り、登場人物の生活や思想・心情を理解する。 ・和歌の修辞技巧を理解し、適切に解釈する。 ・和歌の教養をふまえた機知のおもしろさを理解する。 ・問題演習に取り組むことによって、読解力を伸ばす。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。 ・既習の文法事項への理解を深める。 ・文法について理解し、口語訳に適切に生かす。 ・重要古語を確認し、訳を正しく身につける。 ・漢文に慣れ、句法に従って読解できる。
		日記	「蜻蛉日記」	2	
	5	説話	「今物語」	2	
		説話	「十訓抄」	2	
	6	歴史物語	「大鏡」	2	
		随筆	「徒然草」	2	
	7	軍記物語	「義経記」	2	
		歌物語	「平中物語」	2	
		歌物語	「伊勢物語」	2	
		<2回考查>			
	8	歌論	「俊頼髓脳」	2	
	9	説話	「沙石集」	2	
後 期	10	随筆	「枕草子」	2	
		物語	「源氏物語」	2	
	11	文書	「許六別離の詞」	2	
		思想	「韓非子」	2	
		小説	「世説新語」	2	
	12	説話	「説苑」	2	
		<4回考查>			
	3	説話	「戦国策」	2	
		雑記	「五雑俎」	2	
		説話	「説苑」	1	
		<年度末評価>			
		総時間数			3 9

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
国 語	古典B（古典B R）	1	普通科 （文系選択）	3
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
選 択		習熟度別授業	国語科	

教科書（発行所）	古典B 古文編（三省堂） 古典B 漢文編（三省堂）
教科書以外の教材（発行所）	「古典読解問題（標準編）」（駿台文庫） 「基礎から解釈へ新しい古典文法」（桐原書店） 「精説漢文」（いっずな書店） 「核心古文単語351」（尚文出版）

目 標	古典に親しむことによって、古文漢文の基礎を確実に身につけさせるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げる態度を育てる。 また、古典作品に対する関心を深め、国語力の向上を図るとともに、問題演習を重ねることによって、大学入試に対応できる力を養成する。		
学習のねらい	・既習の文法事項への理解を深める。 ・作品の特性を理解し、読解に生かす。 ・叙述に即して作品の内容を的確に捉える。 ・作品の読解を通して、その時代に生きた人々の生活・思想・心情を理解する。		
定期考査	出題方針	問題集の内容を中心に、課題などからも出題する。	
	範 囲 （予定）	2 回考査	「伊勢物語」「大鏡」「紫式部日記」など
		4 回考査	「明道雑志」「世説新語」「漢書」など
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「関心・意欲・態度」「読む能力」「知識・理解」の3項目とする。 ○具体的な評価は定期考査を中心に、授業の中での考察・課題・ノート提出などを適切に活用して総合的に行う。		
アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	○繰り返し音読する。言葉の学習では音読が最も重要である。 ○予習→授業→復習の積み重ねが重要。予習として本文を写し、重要語句を調べ、口語訳をしてくること。 ・調べてもわからない点について、授業で重点的に学習する。 ・授業で学んだことをできる限りその場で覚え、重要句法・語法については、繰り返し復習をすること。 ○読解力養成のためには多くの作品を読むことが必須となる。課題の問題集等を有効に活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表						
期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント	
前 期	4	物語	「伊勢物語」	2	・各教材について、主体的・発展的に取り組む。 ・叙述に即して、文章の内容を的確に捉える。 ・様々な文章に触れ、それぞれの文章表現の特色を理解する。 ・作品の特性を理解して、作品の構成・展開や内容を読み取る。 ・作品の成立背景を知り、登場人物の生活や思想・心情を理解する。 ・和歌の修辞技巧を理解し、適切に解釈する。 ・和歌の教養をふまえた機知のおもしろさを理解する。 ・問題演習に取り組むことによって、読解力を伸ばす。 ・助詞や助動詞、敬語の知識を確認し、解釈に生かす。 ・既習の文法事項への理解を深める。 ・文法について理解し、口語訳に適切に生かす。 ・重要古語を確認し、訳を正しく身につける。 ・漢文に慣れ、句法に従って読解できる。	
		物語	「大鏡」	2		
	5	日記	「紫式部日記」	2		
		説話	「古今著聞集」	2		
	6	歌論	「袋草紙」	2		
		随筆	「玉勝間」	2		
	7	俳文	「永代橋の墜落」	2		
		日記	「打出の浜の日記」	2		
		随筆	「枕草子」	2		
		＜2回考査＞				
	8	説話	「宇治拾遺物語」	2		
	9	説話	「発心集」	2		
	後 期	10	日記	「蜻蛉日記」		2
歌集			「建礼門院右京の大夫集」	2		
11		物語	「源氏物語」	2		
		物語	「狭衣物語」	2		
		随筆	「明道雑志」	2		
12		逸話	「世説新語」	2		
		＜4回考査＞				
		歴史	「漢書」	2		
		評論	「図画見聞志」	2		
		思想	「韓非子」	1		
3		＜年度末評価＞				
総時間数				39		

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史B (世界史Bα・β)	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説世界史B』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『必携世界史B用語集』（実教出版） 『タペストリー世界史』（帝国書院） 『世界史B 研究ノート 応用編』（啓隆社）

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学習のねらい	1 諸地域世界の結合と変容 アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進んだことを把握させるとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化と社会の変容が促されたことを理解させる。 2 地球世界の形成 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から 20 世紀の歴史の特徴を考察させ、未来を展望させる。		
定期考査 など	出題方針	教科書の内容を中心に、研究ノートや授業プリントなどからも出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	近代ヨーロッパの成立 ヨーロッパ主権国家体制の展開
		第2回考査	欧米における近代社会の成長、 欧米における近代国民国家の発展、
		第3回考査	アジア諸地域の動揺、 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立など
		第4回考査	米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機、 現代世界
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心・意欲・態度、歴史的現象や現代世界の特徴に関する見方や考え方、資料活用、技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査などの考査に加え、授業の中での考察、授業プリントの確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	授業では図表と授業プリントを駆使して、基本用語や歴史の流れ、地図をしっかりと覚えよう。その日のうちに本日の学習内容を復習する習慣をつけておくこと。各章が終わったら、その地域や時代の流れを自分なりにまとめ、教科書を読んで全体の流れを復習すること。テスト前は『研究ノート』の問題を完全に解けるように何度も繰り返し解いてみる。 また、普段から、新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の世界状況にも関心を持ちましょう。		

年 間 授 業 計 画 表				
学期	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	第 II 部	9 章 近代ヨーロッパの成立 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 主権国家体制の形成 10 章 ヨーロッパ主権国家体制の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパ文化	7 8	・ルネサンスや宗教改革などヨーロッパでの政治・文化の変革 ・新航路の開拓とそれによるアメリカ大陸の変貌 ・16世紀の世界の一体化への動き ・主権国家体制の特色 ・主権国家によるヨーロッパの国際関係と商業覇権の推移 ・奴隷貿易と大西洋三角貿易 ・17・18世紀の文化の特徴
		11 章 欧米における近代社会の成長 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン 12 章 欧米における近代国民国家の発展 1 ウィーン体制 2 ヨーロッパの再編 3 アメリカ合衆国の発展 4 19世紀欧米文化 13 章 アジア諸地域の動揺 1 オスマン帝国支配の動揺とアラブのめざめ 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動 14 章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動		・イギリス産業革命の背景と展開 ・資本主義経済の確立とイギリスの繁栄 ・労働運動や社会主義思想の発生 ・アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオン時代、ラテンアメリカ諸国の独立の経過と革命の意義と影響 ・ウィーン体制の特色と体制下の各地の自由主義・ナショナリズムの高まり ・アメリカ合衆国の発展と移民の流入、人種・民族問題 ・ヨーロッパ諸国の進出によるアジア諸国の変容 ・19世紀の世界の一体化への動き ・帝国主義と各国の国情 ・インド、中国などアジア諸国の民族運動
後 期	第 III 部	15 章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ民族主義の進展 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦 16 章 冷戦とアジア・アフリカ世界の自立 1 東西対立のはじまりとアジア諸地域の自立 2 冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 3 第三世界の自立と危機 4 米・ソ両大国の動揺と国際経済の危機 17 章 現代世界 1 冷戦の解消と世界の多様化 2 ソ連・東欧社会主義圏の解体とアジア圏社会主義国の転換 3 第三世界の多元化と地域紛争 4 現代文明 世界史B全範囲の復習・まとめ	7 8	・第一次大戦の経過と影響 ・戦後協調主義の発展と各国の経済状況 ・戦後世界の変化と特質 ・世界恐慌とファシズムの広がり ・第二次大戦の経過と影響 ・米・ソ両陣営の対立と民族独立運動の動向 ・1960～70年代までの世界の政治・経済の動向 ・第三世界の形成と冷戦の深まり ・米ソの動揺と石油危機 ・1980年代から現在までの地球社会形成に向けての、諸地域世界の情勢の大きな流れ ・これからの世界と日本の課題 ・現代文明の特質 問題演習による復習
		総 時 間 数		156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史B（世界史実践）	1	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説世界史B』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『必携世界史B用語集』（実教出版） 『タペストリー世界史』（帝国書院）

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによる。また、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
学習のねらい	1 諸地域世界の形成 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 2 地域世界の交流と再編 ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 3 地球世界の形成 科学技術の発達や生産力の著しい発展の背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から 20 世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心・意欲・態度、歴史的事象や現代世界の特質に関する見方や考え方、資料活用 の技能・表現、知識・理解の 4 項目とする。 ○この授業単体での考查は行わず、具体的な評価は、授業の中での考察、問題集による確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。この授業の評価は「世界史Bα」と併せて評価するものとする。
先生からアドバイス（予習・復習、授業の受け方、ノートの取り方）	教科書を読み、歴史の流れをおおまかに理解しよう。地図や写真を参考に して、それぞれの時代の出来事を想像してみよう。また、新聞・ニュース 報道・インターネット等により現代の状況にも注意しておこう。 授業は、2 年次の既習範囲も含めた世界史Bの学習内容の補足やまとめを 中心に行います。世界史Bのシラバスも参照しなさい。

年 間 授 業 計 画 表			
学期	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	9 章 近代ヨーロッパの成立 10 章 ヨーロッパ主権国家体制の展 開 11 章 欧米における近代社会の成長 12 章 欧米における近代国民国家 の発展	2 0	・ルネサンス・宗教改革の意義 ・覇権国家の変遷と 17～18 世紀の文化 ・アメリカ独立革命・フランス革命・産 業革命の意義とその影響 ・国民国家の成立と発展 ・19 世紀欧米の文化
後 期	13 章 アジア諸地域の動揺 14 章 帝国主義とアジアの民族運動 15 章 二つの世界大戦 16 章 冷戦とアジア・アフリカ世 界の自立 17 章 現代世界 世界史B全範囲の復習とまとめ	1 9	・オスマン帝国・ムガル帝国の盛衰 ・インド及び清に対するヨーロッパ列強 の進出と民族運動 ・アフリカ・太平洋地域の分割 ・19 世紀末～20 世紀前半のヨーロッパ史 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・冷戦期のヨーロッパとアジア ・冷戦の解消と南北問題 問題演習による復習
	総 時 間 数	3 9	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	日本史 B（日本史 B α）	4	普通科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
選択	一 斉 授 業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説日本史』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『新詳日本史』（浜島書店）『改訂版詳録新日本史史料集成』（第一学習社）『日本史B用語集』『日本史総合テスト』（山川出版社）『日本史B一問一答完全版』（ナッセ）

目 標	わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学習のねらい	1 歴史を考察する基本的な方法を理解させるとともに、主題を設定して追求する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 2 原始社会の人々の生活の変化大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連づけて理解させる。 3 武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について東アジア世界の動向と関連づけて理解させる。 4 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 5 開国・幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。 6 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。 7 第二次世界大戦の終結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	1回考査	日本文化のあけぼの～貴族政治と国風文化
		2回考査	中世社会の成立～武家社会の成長
		3回考査	幕藩体制の確立～幕藩体制の動揺
		4回考査	近代国家の成立～激動する世界と日本
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、わが国の歴史の展開に対する関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査に加え、授業の中での考察、問題集確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方など)	教科書の記述内容のみでなく、図説の資料や新聞・ニュース報道、またさまざまな書籍に親しむことにより、より深く歴史や文化について考察して欲しい。予習復習は教科書・用語集を利用すること。		

年間授業計画表					
学期	月	曜日	学習内容	時数	学習のポイント
	4	第	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立	2 3	遺物や写真パネル等で興味を引く 最新の時代観を示し、興味を引く

前期	5	部	3 古墳とヤマト政権	3 東アジアの中の日本の位置付けに注意
			1 第2章 律令国家の形成	
			1 飛鳥の朝廷	3 厩戸王の業績と飛鳥文化を強調
			2 律令国家への道	4 律令体制下の農民負担を把握させる
			3 平城京の時代	3 平城京の政権担当者の盛衰を理解させる
	6	部	4 天平文化	3 シルクロードの東端としての位置付け
			5 平安朝廷の形成	3 脱仏教政治としての平安朝廷を把握
			第3章 貴族政治と国風文化	
			1 摂関政治	3 貴族政治としての摂関を把握する
			2 国風文化	3 貴族文化の典型としての国風文化
7	第2部	3 地方政治の展開と武士	4 地方の混乱から武士が発生すること	
		第4章 中世社会の成立		
		1 院政と平氏の台頭	4 古代勢力が分裂する過程での院政出現	
		2 鎌倉幕府の成立	4 最初の武家政権の成立条件を把握させる	
		3 武士の社会	4 支配者としての武士の再生産の仕組み	
中期	8	部	4 蒙古襲来と幕府の衰退	4 諸外国との関係と幕府の衰退
			5 鎌倉文化	3 武士文化と貴族文化の差に注意
			第5章 武家社会の成長	
			1 室町幕府の成立	3 貴族政権を吸収した武家政権の誕生
			2 幕府の衰退と庶民の台頭	4 将軍と家臣団との確執と庶民の台頭
	9	第3部	3 室町文化	3 武家・公家文化の融合
			4 戦国大名の登場	3 中世的領有制を乗り越える戦国大名登場
			第6章 幕藩体制の確立	
			1 織豊政権	3 戦国大名の淘汰により統一権力の出現
			2 桃山文化	2 大名・豪商を背景とした絢爛豪華な文化
後期	10	部	3 幕藩体制の成立	4 近世的領有制の仕組みを理解する
			4 幕藩体制の構造	4 幕藩体制の構造を理解する
			第7章 幕藩体制の展開	
			1 幕政の安定	4 文治政治による幕政の安定を理解
			2 経済の発展	3 元禄期の経済発展による町人の台頭
	11	第4部	3 元禄文化	3 上方商人を中核とした庶民文化の発展
			第8章 幕藩体制の動揺	
			1 幕政の改革	4 財政改革のための三大改革の成功失敗
			2 宝暦・天明期の文化	3 文化の爛熟と批判思想の弾圧
			3 幕府の衰退と近代への道	3 農民支配の後退と幕府の衰退
後期	12	部	4 化政文化	3 文化の爛熟と批判思想の弾圧
			第9章 近代国家の成立	
			1 開国と幕末の動乱	3 尊攘運動と開国進取思想の相克
			2 明治維新と富国強兵	3 天皇制的近代国家と民衆運動の対立
			3 立憲国家の成立と日清戦争	3 藩閥勢力と民党の対立と接近
	13	部	4 日露戦争と国際関係	3 植民地支配と列強への仲間入り
			5 近代産業の発展	3 日本の資本主義と劣悪な労働環境
			6 近代文化の発達	3 科学・芸術の急速な向上
			第10章 近代日本とアジア	
			1 第一次世界大戦と日本	3 農業国から工業国への転換
後期	14	部	2 ワシントン体制	3 第一次大戦後の世界体制と日本の位置
			3 市民生活の変容と大衆文化	2 大衆文化の成長
			4 恐慌の時代	2 度重なる失政による経済破綻
			5 軍部の台頭	3 デモクラシー弾圧と国家主義・軍国主義台頭
			6 第二次世界大戦	3 軍国主義の暴走と破綻
	15	部	第11章 占領下の日本	
			1 占領と改革	3 民主主義建設の過程を戦後改革で理解
			2 冷戦の開始と講和	2 ミソの東西対立構造と日本の選択
			第12章 高度成長の時代	4 日本の資本主義の復興
			第13章 激動する世界と日本	3 低成長時代と国民生活の停滞
《定期考査》《模試模試》				8
総時間数				156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	日本史研究	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『詳説日本史』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『新詳日本史』（浜島書店）『改訂版詳録新日本史史料集成』（第一学習社）『日本史B用語集』『日本史総合テスト』（山川出版社）『日本史B 一問一答完全版』（カセ）

目 標	我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学習のねらい	1 原始社会の人々の生活の変化大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連付けて理解させる。 2 武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について東アジア世界の動向と関連付けて理解させる。 3 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 4 織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係の変化とその影響にも触れながら理解させる。 5 開国・幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。 6 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。 7 第二次世界大戦の終結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。		
考 査について	出題方針	教科書・問題集などから出題する。	
	単元ごとに復習テストを実施する。		
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、我国の歴史の展開に対する関心・意欲・態度、社会科学的な見方や 考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、授業中の復習テストに加え、授業の中での考察、問題集確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイ ス(予習・復習、 授業の受け方、ノ ートの取り方)	・教科書を読み、歴史の流れを理解しよう。図説の資料や新聞・ニュース報道、また様々な書籍に親しむことによりより深く歴史や文化について考察して欲しい。 ・史料集・用語集を活用すること。		

年 間 授 業 計 画 表				
学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	1章 日本文化のあけぼの	4	・東アジアの中の日本の位置付けに注意 ・律令体制下の農民負担を把握 ・貴族政治としての摂関・貴族文化の典型としての国風文化
	5	2章 律令国家の形成	4	
		3章 貴族政治と国風文化	4	
		<復習テスト>	2	
	6			
	7	4章 中世社会の成立	6	・院政出現・武家政権の成立条件を確認 ・武家・公家文化の融合、庶民の台頭
	8	5章 武家社会の成長	6	
	9	<復習テスト>	2	
後 期	10	6章 幕藩体制の確立	4	・近世的領有制の仕組みの理解 ・文治政治・町人の台頭 ・三大改革・幕府の衰退
		7章 幕藩体制の展開	4	
		8章 幕藩体制の動揺	6	
		<復習テスト>	2	
	11	9章 近代国家の成立	4	・天皇制的近代国家・藩閥勢力と民党の対立・列強への仲間入り ・工業国への転換・ワシントン体制 ・占領と改革・冷戦の開始と講和
		10章 近代日本とアジア	6	
		11章 占領下の日本	4	
	12	<復習テスト>	2	
		12章 高度成長の時代	3	・55年体制・経済復興から高度成長へ ・経済大国への道・冷戦終結と日本社会の動揺
		13章 激動する世界と日本	3	
		<復習テスト>	2	
	1	主題研究	10	○各自主題を設定して研究
総 時 間 数			78	

教科名		科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次		
地理歴史		地理B		3	普通科・理数科	3		
履修形態		授業形態		指導者名				
選択		一斉授業		地歴科担当者				
教科書（発行所）		『新詳地理B 初訂版』（帝国書院）、『高等地図帳 改訂版』（二宮書店）						
教科書以外の教材（発行所）		『17地理要点ノート』（啓隆社）、『新編地理資料2017』（とうほう）、「2017データブックオブザワールド」（二宮書店）						
目 標		現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
学習のねらいなど		(1) 現代世界の系統地理的考察＝①世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ、世界の資源、産業を大観させる。 ②世界の都市・村落や消費、余暇に関する行動、人々の衣食住などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ、世界の都市・村落、生活文化を大観させる。 (2) 現代世界の地誌的考察＝地域の規模に応じて地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は多様な特色をもっていることを理解させるとともに、世界諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点や方法を身に付けさせる。						
定期考査について		出題方針：教科書、サクシードの内容を軸に作成。地図帳、資料集の関連した図表、統計等及び演習プリントからも出題する。						
		出題範囲 （予定）	第1回考査	2章 資源と産業 4節 世界のエネルギー・鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 世界の工業（ヨーロッパまで）				
			第2回考査	6節 世界の工業（ヨーロッパ以降） 7節 第3次産業 8節 世界を結ぶ交通・通信 9節 現代世界の貿易と経済圏 3章 人口、村落・都市 1章 世界の人口 2章 人口問題				
			第3回考査	3章 村落と都市 4章 都市・居住問題 4章 生活文化、民族・宗教				
			第4回考査	1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本				
評価の観点・ 評価の方法		○評価の観点は地理Bで取り扱う諸問題への関心・意欲・態度と現代世界の地理的事象に対する思考力・判断力ならびに資料活用技能により行う。 ○具体的な評価は、定期考査などの考査に加え授業の中での考察、授業プリント確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。						
先生からアドバイ ス(予習・復習の方 法、授業の受け方 、ノートの取り方 など)		教科書を各自で読み、授業の流れをおおまかに理解すること。資料集やデータブック、地図や写真を参考にして、それぞれから読み取れることは何かを考える。またそれらの背景にあるものは何か、それぞれの地域での生活・文化を既習範囲の知識と結びつけながら理解するように努める。新聞・ニュース報道・インターネット等での報道に関心を持ち、現実世界の動きと授業内容をリンクさせる機会を多くもつこと。まとめプリント、白地図を利用したアウトプット中心の学習に努めること（まとめる力）。校内模試、定期考査、校外模試などは必ず復習を行い、問題に直接書き込むことでデータを見る目を養うこと。						
年 間 授 業 計 画 表								
学期	月	単元	学 習 内 容		時数	学習のポイント		
前期	4	第Ⅱ部	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察		1 4	・世界のエネルギー・鉱産資源について、エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。 ・資源・エネルギー問題について、現代世界の資源・エネルギー問題を大観し、世界の資源をめぐる問題、エネルギー生産や消費の抱える課題、日本の資源・エネルギー問題を考察する。 ・世界の工業について、工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。 ・世界を結ぶ交通・通信について、交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 ・世界の人口について、世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。 ・人口問題について、世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。 ・村落と都市について、村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。 ・民族と宗教について、民族と言語、世界の宗教の分布や特徴、生活との関わりについて考察する。 ・現代世界の民族・領土問題を大観し、日本の民族や領土、世界各地の民族の共生についての課題を考察する。		
	5		2章 資源と産業 ・世界の農林水産業 ・世界のエネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 ・世界の工業 ・第3次産業 ・世界を結ぶ交通・通信 ・現代世界の貿易と経済圏					
			3章 人口、村落・都市 ・世界の人口 ・人口問題 ・村落と都市 ・都市・居住問題		1 3			
			4章 生活文化、民族・宗教 ・生活文化 ・民族と宗教 ・現代世界の国家 ・民族・領土問題		1 3			
	6							
	7							
	8							
	総 時 間 数						117	

後 期	9	第Ⅲ部 現代世界の系統地理的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 ・地誌の考察方法 ・東アジア ・東南アジア	1 4	・東アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・東南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。
	10	Ⅲ 部 ・南アジア ・西アジアと中央アジア ・北アフリカとサハラ以南のアフリカ	1 8	・南アジアについて、形式的な地域区分に基づき、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業という多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目した地域区分に基づき、自然、イスラームの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、類似的な性格の二つの地域を比較して考察する。 ・北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目した地域区分に基づき、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきの面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察する。
	11	・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オセアニア	1 5	・ヨーロッパについて、形式的な地域区分に基づき、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界のなかのアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダという多様な事象を項目ごとに整理して静態的に考察する。 ・ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に着目した地域区分に基づき、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事象と他の事象を有機的に関連づけて動態的に考察する。
	12	3章 現代世界と日本 センター過去問演習	1 4	・センター試験過去問の約6～8年分を本試験、追試験に分け演習を積み重ねていく。
	1	まとめ センター試験に向けての演習と地理Bの総復習 ならびに市民スキルとしてのGIS（地理情報システム）の利用と防災力・減災力・防犯力・コミュニティ再構築力などの在り方についての現状と将来展望に向けての分析と考察。	1 6	・地理B全ての範囲を、各種問題集を利用しながら総復習行う。 ・特にセンター試験で出やすい問題、項目、図表については綿密な解説を行い実践力を養う。市民としての在り方を展望して「地理B」の総まとめを行っていく。
	総 時 間 数			117

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
公民	政治・経済（政治・経済）	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴公民担当者		

教科書（発行所）	『高校政治・経済』（実教出版）
教科書以外の教材（発行所）	『高校政治経済演習ノート』（実教出版） 『新センター現社2019』

目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
学習のねらい	- 現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解させるとともに、民主政治の本質について探究させ、政治についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 - 現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済の国際化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の機能について理解させるとともに、その特質を探究させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。 - 政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代の政治や経済の諸課題を追求する学習を行い、望ましい解決の在り方について考察させる。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に演習ノートなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	現代経済の変容、現代経済のしくみなど
		第2回考査	現代経済と福祉の向上、世界経済と日本など
		第3回考査	日本国憲法の基本的性格、日本の政治機構
		第4回考査	現代の民主政治ほか
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、現代社会の諸問題への関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査に加え、授業中の作業・演習で考察し、まとめた提出プリント、長期休業時や小テストなどを適切に活用して総合的に行う。知識・理解を7割から8割。授業中・休業中などの課題提出・授業中の小テストなどを2割から3割。それぞれのトータルで最終評価する。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	- 新聞・ニュース報道・インターネット等により社会の情報を早く收集整理し、現代社会が抱える諸問題を公正な立場から分析理解しよう。さらに、現代社会を成り立たせている過去の歴史や文化について考察してみよう。 - 問題演習プリントも配布するので、短い時間を有効に使って解いてください。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	第1編	第2編 現代の経済 第1章 現代経済の変容	10	- 経済の基本的な概念や経済理論を学習することによって、現代経済の特質について考察する。 - 経済主体（家計・企業・政府）が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解する。 - 金融・財政の基本的なしくみや役割および直面する課題について理解する。 - 経済成長と景気変動に関する基本的なしくみを理解する。
		2	第2章 現代経済のしくみ		
	5	編	第3章 現代経済と福祉の向上 《第1回考査》	10	- 戦後の日本経済のあゆみについて、生産者・消費者・政府それぞれの立場からその変化や課題を考察する。 - 農業問題や社会保障など日本経済が直面する課題について理解し、今後の展望を考察する。
	6		第4章 世界経済と日本	8	- 貿易の意義や国際収支、為替相場の仕組みなど国際経済に関する基本的な概念や理論を理解し、国際経済における日本が果たすべき役割について考察する。 - 地域統合や貿易摩擦など国際経済を取り巻く課題を考察する。
	7		《第2回考査》		
	9	第1編	第1編 現代の政治 1章 民主政治の基本原則	10	- 日本国憲法の制定過程や三大原理について歴史的な経緯を踏まえながら、また具体的な事例に即しながら、理解する。 - 基本的人権が確立するまでの歩みを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。
後期	10		2章 日本国憲法の基本的性格		
		1	3章 日本の政治機構 《第3回考査》	8	- 民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 - 立法・行政・司法のあり方について、問題点も含め幅広い視点から考察する。
	11		4章 現代日本の政治	10	- 人権保障、国民主権、法の支配など、民主主義の原理やその発達について理解する。 - 戦後日本の政治のあゆみを通じて政党政治の特徴や課題を理解する。 - 日本の選挙制度の特質を理解するとともに、のぞましい政治や政治参加のあり方について考察する。
		編	《第4回考査》 5章 現代の国際政治	8	- 国際社会や国際法に関して理解する。 - 国際連合や国際機関の役割と課題について理解する。 - 戦後および冷戦終結後の国際社会の動向について理解する。 - 国際社会における日本の地位と役割を考察する。 - 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較し理解する。
	1	第3編	第3編 現代社会の諸課題 1章 現代日本の諸課題	7	平和主義、情報化、地方自治、小さな政府、産業構造の変化、中小企業、農業・食糧問題など現代の日本が直面している諸課題について考察する。
		2	2章 国際社会の諸課題 入試問題演習（問題集・プリント）	7	- 国際政治・国際経済が直面する諸課題について国際的な視点から追究しながら、日本の役割について考察する。 - 入試問題を通じて課題の理解を深める。
総時間数				78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
公民	現代社会	2	理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	地歴公民科担当者		

教科書（発行所）	現代社会（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	

目 標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づき、広い視野に立って現代の社会と人間について理解を深め、現代社会の基本的問題について主体的かつ公正に判断し、自らの生き方についての指針を探り、良識有る公民としての能力と態度を育てる。		
学習のねらい	1 現代に生きる私たちの課題 大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また、生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 2 現代の社会生活と青年 大衆化、少子高齢化、高度情報化、国際化など現代社会の特質と社会生活の変化について理解させる。また、生涯における青年期の意義と自己形成の課題について考えさせるとともに、自己実現と職業生活、社会参加に触れながら、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。 3 現代の経済と国民福祉 現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。 4 日本国憲法と民主政治 基本的人権の保障と法の支配、国民主権と議会制民主主義、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、日本国憲法の基本的原則について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、世論形成と政治参加の意義について理解させ、民主政治における個人と国家について考えさせる。 5 国際社会と人類の課題 世界の主な国の政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛、資本主義経済と社会主義経済の変容、貿易の拡大と経済摩擦、南北問題について理解させ、国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。		
定期考査	出題方針	教科書内容ベースの授業プリント、毎時確認作業プリントをメインに基礎基本中心に発展問題も出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	現代に生きるわたしたちの課題 現代の社会生活と青年
		第2回考査	現代の経済と国民福祉
		第3回考査	日本国憲法と民主政治
		第4回考査	国際社会と人類の課題
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は現代社会の諸問題への関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用 of 技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は定期考査に加え、毎授業ごとの配布作業プリント（演習作業・新聞記事発表作業）、課題提出などを適切に活用して総合的に評価する。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	リアルな世界の動きを把握するために、新聞・ニュース報道・インターネット等で情報を早く収集整理し、現代社会が抱える諸問題を公正な立場から分析理解してゆきましょう。また現代社会を成り立たせている過去の歴史や文化について考察し国際社会に生きる倫理と使命を展望してみよう。		

年間授業計画表					
学期	月	単	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	第1部	現代に生きる私たちの課題 ①地球環境を考える ②資源・エネルギー問題とわたしたちの生き方 ③科学技術の発達と生命 ④日常生活と宗教と芸術とのかかわり ⑤豊かな生活と福祉社会のあり方	10	・環境問題の原因と対策 ・資源の枯渇問題と新エネルギー開発 ・各廃棄物の処理問題とリサイクル法 ・医療器具や遺伝子医療の発展と尊厳死・臓器移植の持つ意味 ・現代と宗教の動向 ・最低限の生活の維持と福祉行政の矛盾
			現代の社会生活と青年 1 現代社会の特質とわたしたちの生活 2 現代社会と青年の生き方 3 よりよく生きることを求めて	10	・第二の誕生、パラサイト・シングルなど ・7イメンティイ、思春期障害など ・職業の意義、職業選択、フリーター ・若者文化
	5	第2部	現代の経済社会と経済活動 1 経済の仕組み 2 政府の経済的役割 3 変化する日本経済 4 豊かな生活の実現	16	・ベテ産業、エレクトロニクス産業、ハイテクロジー ・市場の自動調節作用、需要供給法則 ・金融の役割、金融市場、 ・経済主体、財政の役割、予算 ・高度経済成長、バブル経済と崩壊 ・公害、四大訴訟、公害対策 ・日本の雇用、雇用制度の変化 ・社会保障制度と日本の制度
			日本国憲法と民主社会 1 民主政治とは 2 日本国憲法と基本的人権 3 国会・内閣・裁判所	18	・人権思想と社会契約説 ・国民主権と参政権、多数決原理 ・議会制民主主義、権力分立、大統領制 ・明治憲法の特色、日本国憲法の原理 ・憲法第9条、自衛隊の海外出動 ・基本的人権の性格、法の下の平等 ・国会の地位と役割、議院内閣制、司法権の独立
	10		4 政治参加と民主政治 《第3回考査》		・選挙の基本原則と諸問題 ・近代社会と自由の理念、権利と義務
	11		国際社会と人類の課題 1 国境を越える経済 2 ボーダレス化のなかの地域 3 国際社会の成立と戦後の動き 4 国際社会の課題	17	・国際法の意義と現実社会の動向と変容 ・国連中心の国際組織の役割と限界 ・NGO等の国際組織の動向と役割 ・冷戦後の国際社会の動向と多極化 ・人権保障と人種・民族問題 ・核兵器と軍縮の動向の現状 ・冷戦後の市場経済の展開の動向 ・グローバリゼーションと南北問題 ・経済的格差の問題と是正 ・地球的問題と動向とその課題展望 ・人類の連帯と日本の果たすべき使命
	12		《第4回考査》		
	1		1年間のまとめ	7	
			総 時 間 数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	理数数学Ⅱ（発展応用数学，標準応用数学）	4	理数科	3
履修形態	授 業 形 態	担 当		
選択	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	数研出版 高等学校「数学Ⅲ」
教科書以外の教材（発行所）	数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」

目 標	数学Ⅲにおける各分野の定理・公式など重要な項目の確認と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、数学Ⅲを中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 数学Ⅲの重要な項目の確認と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 2次試験に対応できるだけの学力を身につける。		
定 期 考 査	出題方針	数学Ⅲ教科書および各問題集から出題。	
	範 囲 （予定）	第1回考查	数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」
		第2回考查	数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」
		第3回考查	数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」
		第4回考查	数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	数学Ⅲは予習・授業・復習のリズムを確立し、「分かる」部分と「分からない」部分をはっきりと見極めをつけ、「分からない」ところは授業で解決すること。 自力で解けなかった問題は家に帰ってもう一度解いて定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、2次試験の演習に入るので、Ⅲの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服、さらに記述力をのばすことを目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	5		《第1回考查》	1	
	6		数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」		
	7			3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
後 期	8		《第2回考查》	1	
	9		数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	10		《第3回考查》 数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」	1	
	11			3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	12		《第4回考查》 数研出版 「クリアー数学演習Ⅲ」 数研出版 「ベーシックスタイル数学演習Ⅲ」	1	
			総 時 間 数	156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	数学ハイパー	2	普通科 (理系) 理数科	3
履修形態		授 業 形 態		担 当
選択		習熟度別授業		数学科

教科書（発行所）	数研出版 高等学校「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」
教科書以外の教材（発行所）	数研出版「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編」

目 標	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bにおける各分野の定理・公式など重要な項目の確認と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、記述式の基本を中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの重要な項目の確認と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 大学受験に対応できるだけの学力を身につける。		
定 期 考 査	出題方針	各問題集のⅠ・A・Ⅱ・B分野から出題。	
	範囲 (予定)	第1回考查	「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」
		第2回考查	「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」
		第3回考查	「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」
		第4回考查	「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	問題演習中心の授業になるので、とにかく自分で解くことが最低限必要である。そして、「分かる」部分と「分からない」部分をはっきりと見極めをつけ、「分からない」ところは授業で解決すること。 自力で解けなかった問題は家に帰ってもう一度解いて定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、本格的な入試問題演習に入るので、Ⅰ・A・Ⅱ・Bの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服を目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	18	・自分で解く。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	5		《第1回考查》 「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	1	・家でもう一度解いてみる。
	6		「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	19	・自分で解く。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	7		《第2回考查》 「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	1	・家でもう一度解いてみる。
	8		「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	18	・自分で解く。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	9				・家でもう一度解いてみる。
	10		《第3回考查》 「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	1	
	11			19	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	12		《第4回考查》 「キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B」	1	・家でもう一度解いてみる。
総 時 間 数				78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	理数数学Ⅱ（発展数学Ⅲ，標準数学Ⅲ）	2	理数科	3
履修形態	授 業 形 態	担 当		
全	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	数研出版「4プロセス数学Ⅲ」 啓林館「Focus Gold 数学Ⅲ」

目 標	極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。		
学習のねらい	1 数列の極限及び関数の極限についての理解を深める。 微分法とその応用、積分法とその応用についての理解を深める。 2 基礎的及び相互関連的な知識の習得と技能の習熟を図る。 3 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、プリントなどから出題する。	
	範 囲 （予定）	第1,2回考查	極限
		第3,4回考查	微分法 積分法
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノートの取り方など)	予習・授業・復習のリズムを早く身につけることが大切である。予習で「分かる」と「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて「できる」ようにしてもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
通	4	関数	3章 関数 (1) 分数関数 (2) 無理関数 (3) 合成関数と逆関数 問題 演習問題	5	・微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に応用できるようにする。 ・分数関数については、分数式の変形、領域の求め方に慣れさせる。また、グラフについては、グラフの平行移動の公式を理解させ、漸近線とともに考察できるようにする。分数方程式、分数不等式を解くのに、分数関数のグラフと直線の上下関係を利用することに習熟させる。 ・無理関数のグラフについてそのグラフがかけないようにする。 ・無理方程式、無理不等式を解くのに、無理関数のグラフと直線の上下関係を利用することに習熟させる。
	5	極限	4章 極限 1節 数列の極限 (1) 数列の極限 (2) 無限等比数列 (3) 無限級数 問題 《第1回考查》	9	・逆関数の意味とその求め方を理解させる。また、もとの関数と逆関数の関係をグラフの位置関係とともに理解させる。
	6		2節 関数の極限 (4) 関数の極限		

期	7	微分	(5) 三角関数と極限 (6) 関数の連続性 問題 演習問題 《第2回考查》	1 6	・合成関数について、写像的な概念を交えながら理解させる。写像そのものについての理解までは必要としない。 ・微分係数と導関数を定義し、あわせて関数の微分可能性と連続性の関係を調べる。 ・関数の和、差の導関数の公式に加え、積や商の導関数の公式を導く。さらに、合成関数や逆関数の微分法を理解させる。これらの公式により、多項式で表される関数以外の関数やそれらの組み合わせとなっている関数が微分できるようにする。
			5章 微分法 (1) 微分係数と導関数 (2) 導関数の計算 (3) いろいろな関数の導関数 (4) 高次導関数 (5) 関数のいろいろな表し方と導関数		
			問題 演習問題		
			6章 微分法の応用 1節 導関数の応用 (1) 接線と法線 (2) 平均値の定理 (3) 関数の値の変化 (4) 関数の最大と最小 (5) 関数のグラフ (6) 方程式、不等式への応用		
			問題 2節 速度と近似値 (7) 速度と加速度 (8) 近似式		
			問題 演習問題 《第3回考查》		
			7章 積分とその応用 1節 不定積分 (1) 不定積分とその基本性質 (2) 置換積分法 (3) 部分積分法 (4) いろいろな関数の不定積分		
			問題		
			2節 定積分 (5) 定積分とその基本性質 (6) 定積分の置換積分法 (7) 定積分の部分積分法 (8) 定積分の種々の問題		
			問題 3節 積分法の応用 (1) 面積 (2) 体積 問題 演習問題 《第4回考查》		
			問題 演習問題 《第4回考查》		
			総 時 間 数	7 8	・多項式で表される関数以外の基本的な関数として、三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求める。 ・第2次導関数、第3次導関数を中心に、第n次導関数を定義し、実際に求められるようにする。 ・微分係数の幾何学的意味を再確認し、接線の方程式とその応用について学ぶ。 ・平均値の定理について、グラフでの考察を通してその意味を理解するとともに、関数の増減を調べることへの活用についても学ぶ。 ・関数の増減とf'(x)の符号との関係を再確認し、様々な関数について増減・極値・極限を調べて、グラフが描けるようにする。 ・第2次導関数を用いて、グラフの凹凸・変曲点・極値を調べる。 ・運動の速度・加速度を微分法により系統的に学ぶ。 ・導関数を用いて、1次近似式を導き関数の近似値を求められるようにする。 ・微分法の逆演算としての不定積分を再確認し、積分定数の意味について考える。 ・置換積分法と部分積分法の原理と具体的方法について学び、それらの計算が適確にできるようにする。 ・いろいろな関数について不定積分の公式を活用できるようにする。 ・不定積分をもとにして、いろいろな関数の定積分の計算ができるようにする。特に置換積分法の計算技法について具体的な例を学ぶ。 ・上端が変数である定積分の表す関数を微分することより、定積分と微分の関係とその利用について学ぶ。 ・区分求積法と定積分の関係を学び、これをもとに定積分を用いて数列の和の極限や不等式の証明ができるようにする。 ・いろいろな関数で表される曲線で囲まれた部分の面積の計算が正確にできるようにする。 ・媒介変数で表される関数曲線で囲まれた部分の面積の計算が正確にできるようにする。 ・立体の体積を定積分を用いて求める方法について学ぶ。 ・回転体の体積の計算ができるようにする。また、球の体積・表面積への利用についても学ぶ。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	応用数学（応用数学・L，応用数学・R）	4	普通科 (理系)	3
履修形態		授 業 形 態	担 当	
選択		一斉授業	数学科	

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	クリアー 数学演習Ⅲ（数研出版） ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ（数研出版）

目 標	数学Ⅲにおける各分野の定理・公式など重要な項目の確認と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、数学Ⅲを中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 数学Ⅲの重要な項目の確認と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 2次試験に対応できるだけの学力を身につける。		
定 期 考 査	出題方針	数学Ⅲ教科書および各問題集から出題。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	クリアー または ベーシックスタイル
		第2回考査	クリアー または ベーシックスタイル
		第3回考査	クリアー または ベーシックスタイル
		第4回考査	クリアー または ベーシックスタイル
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	数学Ⅲは予習・授業・復習のリズムを確立し、「分かる」部分と「分からない」部分をはっきりと見極めをつけ、「分からない」ところは授業で解決すること。 自力で解けなかった問題は家に帰ってもう一度解いて定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、2次試験の演習に入るので、Ⅲの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服、さらに記述力をのばすことを目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単 元	学 習 内 容	時 数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 クリアー 数学演習Ⅲ または ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	5				
	6		《第1回考査》 クリアー 数学演習Ⅲ または ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ	1	
	7			3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
後 期	8		《第2回考査》	1	
	9		クリアー 数学演習Ⅲ または ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	10		《第3回考査》 クリアー 数学演習Ⅲ または ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ	1	
	11			3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	12		《第4回考査》	1	
			総 時 間 数	156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	熟成数学（熟成数学・L，熟成数学・R）	4	普通科（理系）	3
履修形態	授 業 形 態	担 当		
選択	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学B（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リンク 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B c＋d（数研出版） メジアン 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）

目 標	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bにおける各分野の定理・公式など重要な項目の確認と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、センター試験を中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの重要な項目の確認と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 大学受験に対応できるだけの学力を身につける。		
定 期 考 査	出題方針	各問題集から出題。	
	範囲（予定）	第1回考査	リンク 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）
		第2回考査	リンク 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）
		第3回考査	メジアン 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）
		第4回考査	メジアン 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	問題演習中心の授業になるので、とにかく自分で解いて授業に臨むことが最低限必要である。そして、「分かる」部分と「分からない」部分をはっきりと見極めをつけ、「分からない」ところは授業で解決すること。自力で解けなかった問題は家に帰ってもう一度解いて定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、本格的な入試問題演習に入るので、Ⅰ・A・Ⅱ・Bの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服を目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 リンク 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	5		《第1回考査》 問題演習	1	
	6		リンク 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	7		《第2回考査》	1	
後 期	8		問題演習		
	9		メジアン 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	10		《第3回考査》 問題演習	1	
	11		メジアン 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B（数研出版）	3 8	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	12		《第4回考査》	1	
総 時 間 数				156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	数 学 Ⅲ（数学Ⅲ・L，数学Ⅲ・R）	2	普通科(理系)	3
履修形態	授 業 形 態	担 当		
全	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	高等学校 数学Ⅲ（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	4 プロセス数学Ⅲ（数研出版） Focus Gold 数学Ⅲ（啓林館）

目 標	極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。		
学習のねらい	1 数列の極限及び関数の極限についての理解を深める。 微分法とその応用、積分法とその応用についての理解を深める。 2 基礎的及び相互関連的な知識の習得と技能の習熟を図る。 3 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、プリントなどから出題する。	
	範囲（予定）	第1,2回考查	極限
		第3,4回考查	微分法 積分法
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	予習・授業・復習のリズムを早く身につけることが大切である。予習で「分かる」とことと「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて「できる」ようにしてもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表				
学期	月	単元	学 習 内 容	時数
通	4	関数	3 章 関数 (1) 分数関数 (2) 無理関数 (3) 合成関数と逆関数 問題 演習問題	5
	5	極限	4 章 極限 1 節 数列の極限 (1) 数列の極限 (2) 無限等比数列 (3) 無限級数 問題 《第1回考查》	9
	6		2 節 関数の極限 (4) 関数の極限 (5) 三角関数と極限	

期	7	微分	(6) 関数の連続性 問題 演習問題 《第2回考查》	1 6	えながら理解させる。写像そのものについての理解までは必要としない。 ・微分係数と導関数を定義し、あわせて関数の微分可能性と連続性の関係を調べる。 ・関数の和、差の導関数の公式に加え、積や商の導関数の公式を導く。さらに、合成関数や逆関数の微分法を理解させる。これらの公式により、多項式で表される関数以外の関数やそれらの組み合わせとなっている関数が微分できるようにする。 ・多項式で表される関数以外の基本的な関数として、三角関数、対数関数、指数関数の導関数を求める。 ・第2次導関数、第3次導関数を中心に、第n次導関数を定義し、実際に求められるようにする。 ・微分係数の幾何学的意味を再確認し、接線の方程式とその応用について学ぶ。 ・平均値の定理について、グラフでの考察を通してその意味を理解するとともに、関数の増減を調べることへの活用についても学ぶ。 ・関数の増減と $f'(x)$ の符号との関係を再確認し、様々な関数について増減・極値・極限を調べて、グラフが描けるようにする。 ・第2次導関数を用いて、グラフの凹凸・変曲点・極値を調べる。 ・運動の速度・加速度を微分法により系統的に学ぶ。 ・導関数を用いて、1次近似式を導き関数の近似値を求められるようにする。 ・微分法の逆演算としての不定積分を再確認し、積分定数の意味について考える。 ・置換積分法と部分積分法の原理と具体的方法について学び、それらの計算が正確にできるようにする。 ・いろいろな関数について不定積分の公式を活用できるようにする。 ・不定積分をもとにして、いろいろな関数の定積分の計算ができるようにする。特に置換積分法の計算技法について具体的な例を学ぶ。 ・上端が変数である定積分の表す関数を微分することより、定積分と微分の関係とその利用について学ぶ。 ・区分求積法と定積分の関係を学び、これをもとに定積分を用いて数列の和の極限や不等式の証明ができるようにする。 ・いろいろな関数で表される曲線で囲まれた部分の面積の計算が正確にできるようにする。 ・媒介変数で表される関数曲線で囲まれた部分の面積の計算が正確にできるようにする。 ・立体の体積を定積分を用いて求める方法について学ぶ。 ・回転体の体積の計算ができるようにする。また、球の体積・表面積への利用についても学ぶ。
			5 章 微分法 (1) 微分係数と導関数 (2) 導関数の計算 (3) いろいろな関数の導関数 (4) 高次導関数 (5) 関数のいろいろな表し方と導関数		
			問題 演習問題		
			6 章 微分法の応用 1 節 導関数の応用 (1) 接線と法線 (2) 平均値の定理 (3) 関数の値の変化 (4) 関数の最大と最小 (5) 関数のグラフ (6) 方程式、不等式への応用		
			問題 2 節 速度と近似値 (7) 速度と加速度 (8) 近似式		
			問題 演習問題 《第3回考查》		
			7 章 積分とその応用 1 節 不定積分 (1) 不定積分とその基本性質 (2) 置換積分法 (3) 部分積分法 (4) いろいろな関数の不定積分		
			問題		
			2 節 定積分 (5) 定積分とその基本性質 (6) 定積分の置換積分法 (7) 定積分の部分積分法 (8) 定積分の種々の問題		
			問題		
			3 節 積分法の応用 (1) 面積 (2) 体積 問題 演習問題 《第4回考查》		
			総 時 間 数	7 8	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	熟成数学 （熟成数学Ⅰ）	3	普通科 （文系）	3
履修形態	授業形態	担当		
選択	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	数研出版 高等学校「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」
教科書以外の教材（発行所）	数研出版「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」 数研出版「ニューステージ数学演習ⅠA＋ⅡB」 ラーズ「センター試験直前演習」

目 標	前半は、各分野の定理・公式など重要な項目の確認と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、センター試験を中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 重要な項目の確認と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 大学受験に対応できるだけの学力を身につける。		
定 期 考 査	出題方針	各問題集のⅡ・B分野から出題。	
	範囲 （予定）	第1回考査	「キートレーニングⅠ・A・Ⅱ・B受験編」
		第2回考査	「キートレーニングⅠ・A・Ⅱ・B受験編」
		第3回考査	「ニューステージ数学演習ⅠA＋ⅡB」
		第4回考査	「センター試験直前演習」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	問題演習中心の授業になるので、とにかく自分で解いて授業に臨むことが最低限必要である。そして、「分かる」部分と「分からない」部分をはっきりと見極めをつけ、「分からない」ところは授業で解決すること。自力で解けなかった問題は家に帰ってもう一度解いて定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、本格的な入試問題演習に入るので、Ⅰ・AⅡ・Bの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服を目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 「キートレーニングⅠ・A・Ⅱ・B受験編」	27	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	5				・家でもう一度解いてみる。
			《第1回考査》	1	
	6		問題演習 「キートレーニングⅠ・A・Ⅱ・B受験編」	29	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	7		《第2回考査》	1	・家でもう一度解いてみる。
	8		問題演習 「ニューステージ数学演習ⅠA＋ⅡB」（予定）	29	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	9				・家でもう一度解いてみる。
	10		《第3回考査》	1	
			問題演習 ラーズ「センター試験直前演習」（予定）	28	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
後 期	11				・家でもう一度解いてみる。
	12		《第4回考査》	1	
総 時 間 数				117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
数学	熟成数学 (熟成数学 R)	3	普通科 (文系)	3
履修形態	授業形態	担当		
選択	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	数研出版 高等学校「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」
教科書以外の教材（発行所）	数研出版「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」 ラーンズ「センター試験直前演習」

目 標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、個別学力試験及びセンター試験を中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 大学受験に対応できるだけの学力を見につける。		
定 期 考 査	出題方針	各問題集のⅠ・A・Ⅱ・B分野から出題。	
	範囲 (予定)	第1回考査	問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」
		第2回考査	問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」
		第3回考査	問題集「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」
		第4回考査	問題集「センター試験直前演習」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	予習・授業・復習のリズムを早く身につけることが大切である。予習で「分かる」とこと「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、本格的な入試問題演習に入るので、Ⅰ・A・Ⅱ・Bの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服を目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」	28	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	5		《第1回考査》	1	・家でもう一度解いてみる。
	6		問題演習 「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」	28	・自分で解いてから授業に臨む。
	7				・解けなかった問題を授業で理解する。
	8		《第2回考査》	1	・家でもう一度解いてみる。
	9		問題演習 「キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B受験編」	28	・自分で解いてから授業に臨む。
後 期	10		《第3回考査》	1	・家でもう一度解いてみる。
	11		問題演習 「センター試験直前演習」(予定)	7 22	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	12		《第4回考査》	1	・家でもう一度解いてみる。
総 時 間 数				117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	数 学 ウ ル ト ラ （数学ウルトラ L）	2	普通科 （文系）	3
履修形態	授 業 形 態	担 当		
選択	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	数研出版 高等学校「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」
教科書以外の教材（発行所）	数研出版「数学Ⅰ AⅡ B 標準演習 PLAN100」 数研出版「ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B」 ラーンズ「センター試験直前演習」

目 標	前半は、数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bにおける各分野の定理・公式など重要な項目の確認と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、センター試験を中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの重要な項目の確認と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 大学受験に対応できるだけの学力を身につける。		
定 期 考 査	出題方針	各問題集のⅠ・A分野から出題。	
	範囲 （予定）	第1回考査	「数学Ⅰ AⅡ B 標準演習 PLAN100」
		第2回考査	「数学Ⅰ AⅡ B 標準演習 PLAN100」
		第3回考査	「ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B」
		第4回考査	「センター試験直前演習」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイ ス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノー トの取り方など）	問題演習中心の授業になるので、とにかく自分で解いて授業に臨むことが最低限必要である。そして、「分かる」部分と「分からない」部分をはっきりと見極めをつけ、「分からない」ところは授業で解決すること。自力で解けなかった問題は家に帰ってもう一度解いて定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、本格的な入試問題演習に入るので、Ⅰ・A・Ⅱ・Bの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服を目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 「数学Ⅰ AⅡ B 標準演習 PLAN100」	18	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	5			1	
	6		《第1回考査》 問題演習 「数学Ⅰ AⅡ B 標準演習 PLAN100」	19	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	7			1	
後 期	8		《第2回考査》	19	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	9		問題演習 「ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B」（予定）		
	10			1	
			《第3回考査》 問題演習 「センター試験直前演習」（予定）	18	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	11				
	12		《第4回考査》	1	
総 時 間 数				78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	数 学 ウ ル ト ラ (数学ウルトラ R)	3	普通科 (文系)	3
履修形態	授 業 形 態	担 当		
選択	一斉授業	数学科		

教科書（発行所）	数研出版 高等学校「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」
教科書以外の教材（発行所）	数研出版「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」 ラーズ「センター試験直前演習」

目 標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用するようにする。 また、個別学力試験及びセンター試験を中心に入試問題を解く力を養成する。		
学習のねらい	1 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 2 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 3 大学受験に対応できるだけの学力を見につける。		
定 期 考 査	出題方針	問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」
		第2回考査	「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」
		第3回考査	「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」
		第4回考査	ラーズ「センター試験直前演習」
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、数学への関心、意欲・態度、数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイ ス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	予習・授業・復習のリズムを早く身につけることが大切である。予習で「分かる」と「分からない」ことの見極めをつけ、「分からない」ことは授業で解決させること。授業で「分かった」ことを復習で定着させて「できる」ようにしてもらいたい。 また、本格的な入試問題演習に入るので、Ⅰ・A・Ⅱ・Bの全範囲にわたって、基本事項の確認と弱点の克服を目指して取り組んでもらいたい。		

年 間 授 業 計 画 表					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4		問題演習 「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」	27	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	5		《第1回考査》 問題演習 「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」	1	・家でもう一度解いてみる。
	6			29	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	7		《第2回考査》		・家でもう一度解いてみる。
	8		問題演習 「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」	1	
	9			29	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。
	10		《第3回考査》 問題演習 ラーズ「センター試験直前演習」(予定)	1	・家でもう一度解いてみる。
	11			28	・自分で解いてから授業に臨む。 ・解けなかった問題を授業で理解する。 ・家でもう一度解いてみる。
	12		《第4回考査》	1	
後 期			総 時 間 数	117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	物理（物理Ⅰ）	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（物理）		

教科書（発行所）	物理（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リードα物理基礎・物理（数研出版），らくらくマスター（河合塾出版）

目 標	物理的な事物・現象についての観察，実験や課題研究などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解の理解を深め，科学的な自然観を育成する。		
	1 波 (3) 光 光の性質，レンズ，光の干渉と回折について理解する 2 電気と磁気 (1) 電場 静電気力，電場，電位について理解し，電場の中の物体やコンデンサーについて考察する。 (2) 電流 オームの法則を理解し，電流のはたらきや直流回路の電流の流れを理解する。 (2) 電流と磁場 電流のつくる磁場，電流が磁場から受ける力(ローレンツ力)などを理解する。 (3) 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則を理解し，イダが交流回路について考察する。 3 原子 (1) 電子と光 光の粒子性や電子の波動性について学び，素粒子について理解を深める。 (2) 原子と原子核 原子の構造とエネルギー準位，原子核と放射線，その性質について学ぶ		
定期考查	出題方針	授業プリント，課題プリント及び実験を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	第 1 回考查	光の性質，レンズ，光の干渉と回折について考察する問題
		第 2 回考查	電場，磁場，コンデンサー，電流，直流回路，電流のつくる磁場などについて考察する問題
		第 3 回考查	電流が磁場から受ける力(ローレンツ力)の働き，電磁誘導の法則を理解し，イダが交流回路，電子のふるまいから物質の性質を考察する問題
		第 4 回考查	原子の構造について考察する問題と「演習」で取り扱った問題
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は，科学への関心，意欲・態度，科学的な見方や考え方，科学的な表現・処理，知識・理解の 4 項目とする。 ◎具体的な評価は，授業プリントの提出，実験レポートを適切に活用して総合的に行う。また実験においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート の取り方など)	授業を大切にすること。真剣にメモを取りながら聞き，理解できるところでできないところを明確にすること。公式は「覚える」のではなく，それに至った過程を読み返して「納得する」こと。その上で，授業で行った教科書等の問題演習を家庭でもう一度解いてみる。問題解法のパターンがわかれば，物理が楽しくなる。		

年間授業計画				
学期	月	単元	学習内容	時数
前期	4	[第3編] 波 第3章 光 (1) 光の性質 (2) レンズ (3) 光の干渉と回折		5 7 7
	5	[第4編] 電気と磁気 第1章 電場 (1) 静電気力 (2) 電場 (3) 電位 (4) 物質と電場 (5) コンデンサー		4 5 3 8 8
後期	6	第2章 電流 (1) オームの法則 (2) 直流回路 (3) 半導体		4 4 4
	7	第3章 電流と磁場 (1) 磁場 (2) 電流のつくる磁場 (3) 電流が磁場から受ける力 (4) ローレンツ力		4 5 6 6
後期	8	第4章 電磁誘導と電磁波 (1) 電磁誘導の法則 (2) 交流の発生 (3) 自己誘導と相互誘導 (4) 交流回路 (5) 電磁波		6 5 5 6 4
	9	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性		5 5 5 5
後期	10	第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー準位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子		6 5 5 5 4 5
	11	まとめ		5
後期	12			
	1 2 3			
総 時 間 数			156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	物理（物理R）	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（物理）		

教科書（発行所）	物理（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リードα物理基礎・物理（数研出版）、物理重要問題集（数研出版） チェック&演習 物理（数研出版）

目 標	物理的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
	1 波 (3) 光 光の性質、レンズ、光の干渉と回折について理解する 2 電気と磁気 (1) 電場 静電気力、電場、電位について理解し、電場の中の物体やコンデンサーについて考察する。 (2) 電流 オームの法則を理解し、電流のはたらきや直流回路の電流の流れを理解する。 (2) 電流と磁場 電流のつくる磁場、電流が磁場から受ける力(ローレンツ力)などを理解する。 (3) 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則を理解し、インダクタや交流回路について考察する。 3 原子 (1) 電子と光 光の粒子性や電子の波動性について学び、素粒子について理解を深める。 (2) 原子と原子核 原子の構造とエネルギー準位、原子核と放射線、その性質について学ぶ		
定期考査	出題方針	授業プリント、課題プリント及び実験を中心に出題する。	
	範 囲 (予定)	第 1 回考査	光の性質、レンズ、光の干渉と回折について考察する問題
		第 2 回考査	電場、磁場、コンデンサー、電流、直流回路、電流のつくる磁場などについて考察する問題
		第 3 回考査	電流が磁場から受ける力(ローレンツ力)の働き、電磁誘導の法則を理解し、インダクタや交流回路、電子のふるまいから物質の性質を考察する問題
		第 4 回考査	原子の構造について考察する問題と「演習」で取り扱った問題
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、授業プリントの提出、実験レポートを適切に活用して総合的に行う。また実験においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	授業を大切にすること。真剣にメモを取りながら聞き、理解できるところできないところを明確にすること。公式は「覚える」のではなく、それに至った過程を読み返して「納得する」こと。その上で、授業で行った教科書等の問題演習を家庭でもう一度解いてみる。問題解法のパターンがわかれば、物理が楽しくなる。		

年間授業計画				
学期	月	単元	学習内容	学習のポイント
前期	4	[第3編] 波 第3章 光 (1) 光の性質 (2) レンズ (3) 光の干渉と回折		・ 光が横波であること、光に速さがあること、屈折などから光の波としての性質について理解する。 ・ レンズの公式を理解し、実像ができる条件、虚像ができる条件など、レンズの一般的なことを理解する。 ・ ヤングの実験や回折格子を用いた実験から、光の波長を求めることができることを発展的に理解する。ヤングの実験を行う。
	5	[第4編] 電気と磁気 第1章 電場 (1) 静電気力 (2) 電場 (3) 電位 (4) 物質と電場 (5) コンデンサー		・ 電荷の間にはたらく力について知り、電荷が周囲の空間に影響を与え、電場をつくることを考える。 ・ 電場はベクトルであり、大きさが距離の2乗に反比例することを理解する。 ・ 電位の定義を知り、電場と電位の関係を理解する。 ・ 静電誘導、誘電分極について理解する。 ・ コンデンサーの電気容量とたくわえる電荷、加える電圧との関係を物理的に考える。
後期	6	第2章 電流 (1) オームの法則 (2) 直流回路 (3) 半導体		・ 電場、電位の考え方をを用いて、電流が流れるしくみや、複雑な回路における電流の流れや電位の関係などを電圧降下などから理解する。 ・ 回路における電流の流れについて、キルヒホッフの法則を用いて求めることができる。 ・ 半導体について知り、ダイオード、P型、N型半導体の働きを考える。
	7	第3章 電流と磁場 (1) 磁場 (2) 電流のつくる磁場 (3) 電流が磁場から受ける力 (4) ローレンツ力		・ 磁場の定義を理解し、点電荷の作る磁場の向きや大きさを知る。 ・ 電流が流れるときにまわりにつくる磁場の大きさについて考える。 ・ 電流が受ける力の大きさと磁場と交差する角度、電流、磁場の大きさとの関係を理解する。 ・ 荷電粒子が磁場から受けるローレンツ力を求める。
後期	8	第4章 電磁誘導と電磁波 (1) 電磁誘導の法則 (2) 交流の発生 (3) 自己誘導と相互誘導 (4) 交流回路 (5) 電磁波		・ 電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。 ・ 交流の発生と交流の表し方を理解する。 ・ 自己誘導、相互誘導が起こるしくみを理解し、インダクタンスを考える。 ・ 抵抗、コイル、コンデンサーに交流を流したときの電流の流れ方について理解し、リアクタンスを考える。 ・ 電磁波が電場・磁場の波としての性質について理解する。
	9	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性		・ 陰極線の性質を理解し、電場や磁場の中での振る舞いから陰極線の正体について推論する。 ・ トムソン・ミリカンの実験から比電荷、電荷、質量が実験されてきた過程を理解する。 ・ 光電効果、光子仮説について理解する。 ・ X線の発生、X線の粒子性とコンプトン効果について理解する。 ・ 物質波、ドブロイ波長について学び、電子線の回折について理解する。 ・ ラザフォードの原子模型と水素原子のスペクトルについて学び、ボーアの理論から説明できることを理解する。 ・ 原子核の構造と放射線を学び、原子核の崩壊について理解する。 ・ 半減期、放射能と放射線の測定単位、放射線による影響について理解する。 ・ 核反応と核エネルギーについて理解する。 ・ 物質を構成する基本的要素である素粒子について学び、理解する。
後期	10	第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー準位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子		・ 様々な基礎・応用問題に取り組み、既習事項の総まとめを行う。
	11	まとめ		
後期	12			
	1			
後期	2			
	3			
総 時 間 数			156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	化学基礎(化学基礎)	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	化学基礎（実教出版）
教科書以外の教材（発行所）	ニュートライノVol.1～3（東京書籍） リードα化学基礎（数研出版） ビーライン化学基礎（第一学習社）

目 標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行ない、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探求する能力と態度を身に付けるとともに、基本的な概念や原理・法則を再度理解し、化学的な自然観を拡充する。また、中学校までの知識や、それを踏まえた高校における授業を通して得られた知識の定着を図るため、適宜問題演習を行う。										
学習のねらい	1 <u>物質の成り立ち</u> ：物質の分離・精製や元素の確認などを通して、単体、化合物及び混合物について理解させ、実験における基本操作と物質を探究する方法を再認識させる。また、粒子の熱運動と温度及び物質の三態変化との関係について理解を深めさせる。 2 <u>物質の構成粒子</u> ：原子の構造（陽子、中性子、電子）及び電子配置と周期律との関係や化学結合と物質の性質との関係を振り返らせる。 3 <u>物質と化学結合</u> ：イオンの生成と電子配置との関連性、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質、金属結合及び金属の性質、共有結合および共有結晶の性質、分子からなる物質の性質を再確認させる。 4 <u>物質と化学変化</u> ：物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解を深めるとともに、化学反応に関与する物質とその量的関係を表す化学反応式の書き方や使用法を再確認させる。 5 <u>酸と塩基</u> ：酸と塩基、水素イオン濃度と pH、中和反応と塩の生成を、教科書や補助教材などを通して探究し、基本的な概念や法則を深く理解させ、様々な問題で活用できるようにする。 6 <u>酸化と還元</u> ：酸化・還元における酸素、水素、電子の授受を理解させると同時に、酸化剤・還元剤をからめて深く理解させる。また、金属のイオン化傾向を再認識させる。加えて、酸化還元反応の身近な応用例を再確認させる。										
定期考査	出題方針 教科書、授業プリント、問題集から出題する。 範囲（予定） <table><tr><td>第1回考査</td><td>物質の成り立ち ～ 物質と化学変化</td></tr><tr><td>第2回考査</td><td>物質と化学変化 ～ 酸と塩基</td></tr><tr><td>第3回考査</td><td>酸と塩基 ～ 酸化と還元</td></tr><tr><td>第4回考査</td><td>物質の成り立ち ～ 物質と化学変化</td></tr><tr><td>年度末考査</td><td>実施しない</td></tr></table>	第1回考査	物質の成り立ち ～ 物質と化学変化	第2回考査	物質と化学変化 ～ 酸と塩基	第3回考査	酸と塩基 ～ 酸化と還元	第4回考査	物質の成り立ち ～ 物質と化学変化	年度末考査	実施しない
第1回考査	物質の成り立ち ～ 物質と化学変化										
第2回考査	物質と化学変化 ～ 酸と塩基										
第3回考査	酸と塩基 ～ 酸化と還元										
第4回考査	物質の成り立ち ～ 物質と化学変化										
年度末考査	実施しない										
評価の観点・方法	◎評価の観点は、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、主に定期考査、課題、場合に応じて実験書を適切に活用して総合的に行なう。また、実験においては必要に応じて自己評価も取り入れる。										
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	①授 業：配付されたプリントについて、確認する。理解できない箇所は解説をよく聞き、できるだけ授業中に解決する。 ②復 習：授業で行った部分を再度確認する。覚えていなかった部分やあいまいだった部分、間違った部分は、ノートなどに書いて覚え直す。難問は、どこまで分かり、どこから分からないのかをはっきりさせ、分かるところまで自力で理解すること。その上で、教科書を良く読んだり、友人や先生に質問したりする。 ③考 査：よく勉強、復習してから受ける。分かる問題は確実に正解する。分からない問題は考査後すぐに見直す。										

年 間 授 業 計 画				
学期	月	単 元	学 習 内 容	時 数
前期	4	序	化学と人間生活 A 人間生活の中の化学 B 化学とその役割	4
	5	第1章 物質の構成		6
		1節 物質の探究 物質の成分		
		2節 物質の構成粒子 原子の構造 電子配置と周期表		6
	6	第2章 物質と化学結合		10
	7	1節 イオンとイオン結合		
		2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合		8
	8	第3章 物質の変化		
	9	1節 物質と化学反応式 原子量・分子量と物質質量		
		化学変化の量的関係		
後期	10	2節 酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和反応の量的関係と中和滴定		15
	11	3節 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤・還元剤		16
		第1編、第2編の内容全て		13
	12			
	1			
総時間数			78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	化学（化学・L）	4	普通科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	化学（実教出版）
教科書以外の教材（発行所）	改訂版 リードα化学（数研出版） 五訂版 スクエア最新図説化学（実教出版） 化学実験と考察 化学（岡山県高等学校理科協議会化学部会）

目 標	化学的な事物・現象についての観察，実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な自然観を育成する。また，発展的な事象も取り扱い，化学的思考力の伸長を図る。		
学習のねらい	1. 無機物質 無機物質の性質や反応を探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。 2. 有機化合物 有機化合物の性質や反応を探究し，有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる 3. 高分子化合物 高分子化合物の性質や反応を探究し，合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる		
定期考查	出題方針	問題集及び教科書を中心に出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考查	無機化学
		第2回考查	無機化学・有機化学
		第3回考查	有機化学・高分子化学
		第4回考查	総合問題
評価の観点・ 評価の方法	◎ 評価の観点は，科学への関心・意欲・態度，科学的な見方や考え方，科学的な表現・処理，知識・理解の4項目とする。 ◎ 具体的な評価は，定期考查，課題の提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート の取り方など）	授業を大切に，復習を教科書の問などできちんとすること。リードα化学などの問題集で復習をする。実験にあたっては注意をよく聞いて，積極的に活動をするように心がける。実験レポートの作成も丁寧に。演習問題はノートにやり，間違いは直しておく。また，日常的な化学の話題に関心をもつことが大切である。		

年 間 授 業 計 画				
学期	月	単 元	学 習 内 容	時数 学習のポイント
前 期	4	第3章 無機物質		
		3節 金属元素		17
		・アルカリ金属とその化合物		
		・2族元素とその化合物		
		・1，2族以外の典型元素とその化合物		
		・遷移元素とその化合物		
		・金属イオンの分離と確認		
	5	4節 無機物質と人間生活		2
		・金属	・セラミックス	
		・無機物質の活用		
		第4章 有機化合物		
		1節 有機化合物の特徴と分類		2
	6	2節 脂肪族炭化水素		10
		・飽和炭化水素	・不飽和炭化水素	
		3節 酸素を含む脂肪族化合物		10
	7	・アルコールとエーテル		
		・アルデヒドとケトン		
		・カルボン酸とエステル		
		4節 構造式の決定		3
		・構造式を決定する手順		
		・分離・精製と元素分析		
		・分子式・構造式の決定		
	8	5節 芳香族化合物		10
		・芳香族炭化水素		
		・酸素を含む芳香族化合物		
		・窒素を含む芳香族化合物		
		・有機化合物の分離		
	9	6節 有機化合物と人間生活		8
		・エネルギー	・食品	
		・医薬品や洗剤	・染料	
		第5章 高分子化合物		
		1節 高分子化合物		6
		・高分子化合物の分類と特徴		
		2節 合成高分子化合物		10
		・合成高分子化合物の分類		
		・合成繊維	・合成樹脂	
		・ゴム	・機能性高分子化合物	
後 期	10	3節 天然高分子化合物		10
		・糖類	・タンパク質	
		・核酸		
	11	4節 高分子化合物と人間生活		2
	12	・合成樹脂	・繊維	
		・資源の再利用		
	1	まとめ		66
	2			
		総 時 間 数		156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	化学（化学・R）	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	化学（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	改訂版 リードα化学（数研出版） 五訂版 スクエア最新図説化学（実教出版） 化学実験と考察 化学（岡山県高等学校理科協議会化学部会）

目 標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。また、発展的な事象も取り扱い、化学的思考力の伸長を図る。		
学習のねらい	1. 無機物質 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 2. 有機化合物 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる 3. 高分子化合物 高分子化合物の性質や反応を探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる		
定期考査	出題方針	問題集及び教科書を中心に出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	無機化学
		第2回考査	無機化学・有機化学
		第3回考査	有機化学・高分子化学
		第4回考査	総合問題
評価の観点・ 評価の方法	◎ 評価の観点は、科学への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎ 具体的な評価は、定期考査、課題の提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	授業中に理解しながら覚え、家庭では問題集を利用して復習し身に付けること。 実験にあたっては注意をよく聞いて、積極的に活動をするように心がける。実験書の記入は丁寧にすること。 また、日常的な化学の話題に関心をもつこと。		

年 間 授 業 計 画				
学期	月	単元	学 習 内 容	学習のポイント
前 期	4	第3章 無機物質		
		3節 金属元素	・アルカリ金属とその化合物 ・2族元素とその化合物 ・1, 2族以外の典型元素とその化合物 ・遷移元素とその化合物 ・金属イオンの分離と確認	・それぞれの金属の単体や化合物の性質、製法について知る。 ・遷移元素について、単体や化合物の性質、製法について知る。 ・金属イオンの分離の仕方を学ぶ。
	5	4節 無機物質と人間生活	・金属 ・セラミックス ・無機物質の活用	・無機物質がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
		第4章 有機化合物		
		1節 有機化合物の特徴と分類		・有機化合物の特徴と分類について知る。 ・構造式、示性式の表し方や異性体について知る。
	6	2節 脂肪族炭化水素	・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素	・脂肪族炭化水素の一般式や製法と性質、異性体、反応性について知る。
	7	3節 酸素を含む脂肪族化合物	・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル	・アルコールや関連化合物など酸素を含む有機化合物の性質を知る ・高級脂肪酸とグリセリンによる油脂やセッケンの製法、性質について知る。
		4節 構造式の決定	・構造式を決定する手順 ・分離・精製と元素分析 ・分子式・構造式の決定	・構造式、示性式などの表し方や質量分析による構造式の決定法を学ぶ。
	8	5節 芳香族化合物	・芳香族炭化水素 ・酸素を含む芳香族化合物 ・窒素を含む芳香族化合物 ・有機化合物の分離	・ベンゼンの構造を学び芳香族化合物の性質を知る。また芳香族化合物であるフェノール、安息香酸、アニリンなどの性質を知る。 ・芳香族化合物分離の方法を学ぶ。
	9	6節 有機化合物と人間生活	・エネルギー ・食品 ・医薬品や洗剤 ・染料	・有機化合物がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
後 期		第5章 高分子化合物		
		1節 高分子化合物	・高分子化合物の分類と特徴	・重合方法を学び様々な合成高分子化合物の製法、性質について知る。
		2節 合成高分子化合物	・合成高分子化合物の分類 ・合成繊維 ・合成樹脂 ・ゴム ・機能性高分子化合物	・合成繊維、合成樹脂について構造やその用途などを知る。 ・機能性高分子やゴムの種類などを学び、そ
	10	3節 天然高分子化合物	・糖類 ・タンパク質 ・核酸	・天然高分子化合物の構造や性質、その用途について知る。
	11	4節 高分子化合物と人間生活	・合成樹脂 ・繊維 ・資源の再利用	・高分子化合物がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
	12	まとめ		・センター演習、入試問題など様々な基礎応用問題に取り組み、総まとめを行う。
		総 時 間 数		156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	生物基礎（標準）	2	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（生物）		

教科書（発行所）	生物基礎（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	短期攻略センター生物基礎（駿台文庫）

目標	生物や生物現象についての観察実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を養うとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。また、学習内容について、発展的に知識・理解を深める。		
学習のねらい	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
定期考査	出題方針	教科書及び問題集の内容がよく理解できているかどうか が反映される問題を出題する。	
	範囲 （予定）	第1回	マーク方式を取り入れながら、基礎基本の定着を図る総合問題を出題
		第2回	マーク方式を取り入れながら、基礎基本の定着を図る総合問題を出題
		第3回	マーク方式を取り入れながら、基礎基本の定着を図る総合問題を出題
		第4回	マーク方式を取り入れながら、基礎基本の定着を図る総合問題を出題
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点とは、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、実験・観察の技能、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は定期考査を中心にして、授業プリント等の提出等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からのアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノート の取り方など）	既習事項の復習を行いながら演習問題に取り組みます。細かい基本用語等、抜け落ちていた部分が多くあると思いますので、教科書・ノート・問題集を見直しながら、確実な知識の積み重ねを行うようにしてください。また、実際の入試問題に取り組み、実践的な力も身につけるように心掛けましょう。		

年間授業計画				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	第1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 原核生物と真核生物の観察 「身近な原核生物」	50	・生物の特徴の1つに挙げられる、多様性と共通性について学ぶ。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・エネルギーと代謝の関係性とエネルギーの通貨としてはたらくATPについて学ぶ。 ・ATPで筋収縮が起こることを知る。 ◎酵素の基質特異性や最適温度・最適pHについて学ぶ。 ◎葉緑体にはチラコイドとストロマがあり、それぞれが光合成において重要な反応の場となっていることを知る。 ◎ミトコンドリアにはマトリックスとクリステがあり、それぞれが細胞呼吸において重要な場となっていることを知る。 ・遺伝子の本体としてのDNAについて学ぶ。 ・身のまわりの材料のDNA抽出実験を通して生物がDNAをもつことを知る。 ◎ヒトのゲノムがどのような方法で解読され、その結果どのような注意点が生じたかを学ぶ。 ・歴史的な研究成果を追いながら、だれのどのような研究により、遺伝子の本体やDNAの構造が解明されたか、それぞれの経緯を理解する。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について学ぶ。 ・体細胞分裂時の染色体の動きを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ◎DNAとヒストンにより構成される染色体の構造について理解する。 ・分裂する細胞としない細胞にはどのような違いがあるか細胞周期をもとにして理解する。 ◎核の中で、DNAが塩基の相補性に基づき複製されるしくみを図をもとにして学ぶ。 ・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を理解する。 ・生命現象に関わるいろいろなタンパク質について学ぶ。 ◎DNAとRNAをそれぞれ構成するデオキシリボースとリボースの構造について知る。 ◎アミノ酸を指定するために4種類の塩基が必要な理由を理解し、トリプレットの種類について学ぶ。 ◎mRNAのコドンがリボソームによりアミノ酸に翻訳されるしくみを学ぶ。 ◎DNAの転写とハエなどの発生過程でみられるバフの関係性を理解する。 ・体細胞分裂のひとつである卵割の観察を行い、卵割と通常の体細胞分裂の違いについて考察する。 ・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などのはたらきを学ぶ。 ◎細胞膜の性質としての選択的透過性には、エネルギーを必要としない受動輸送とエネルギーが必要な能動輸送があることを学ぶ。 ・酸素解離曲線の意味と、酸素とヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解し、組織への酸素の受け渡し方について学ぶ。 ◎血小板と血しょう中に含まれるタンパク質やCa ²⁺ の相互作用について理解し、凝固が起こるしくみについて学ぶ。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿とし、必要な物質は血液中に残すはたらきを理解する。 ・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを学ぶ。 ・ホルモンを分泌する内分泌腺と汗や消化液などを分泌する外分泌腺との構造上の違いについて学ぶ。 ・ペイリスラによってセクレチンが発見された経緯を知る。 ◎レプチンとグレリンという2種類のホルモンによって、体脂肪量の調節がなされるしくみを理解する。 ・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除
		2章 生命活動とエネルギー 「ATPによる筋収縮」 ◎「酵素の性質」 ◎「葉緑体の構造とはたらき」 ◎「ミトコンドリアの構造とはたらき」 光のエネルギーを用いて有機物がつくられることの確認 「現在もみられる細胞内への共生」		
	6	第2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 DNAの抽出 ◎「ヒトゲノムプロジェクト」 「遺伝物質であるDNAはどのように解明されてきたのだろうか」		
		2章 遺伝情報の分配 体細胞分裂の観察 ◎「DNAと染色体」 「分裂する細胞、分裂しない細胞」 ◎「塩基の相補性を利用したDNAの複製」		
	7	3章 遺伝情報とタンパク質の合成 「生命現象とタンパク質」 ◎「デオキシリボースとリボース」 ◎「3つの塩基の並び方とトリプレット」 ◎「翻訳のしくみ」 ◎「ハエの発生過程とバフ」 バフの観察		
		第3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 ◎「細胞の膜のはたらき」 「酸素のヘモグロビンへの結合」 ◎「血液凝固反応のしくみ」 血球の観察 「腎臓による尿の生成と老廃物の濃縮」		
	9	2章 体内環境の調節 「内分泌腺と外分泌腺」 「ホルモンの発見」 ホルモンによる魚の心拍数の変化 ◎「ホルモンによる体脂肪量の調節」		
		3章 免疫 ◎「ウイルスの増殖に対する免疫細胞の対応」 ◎「自己と非自己の認識」 ◎「移植された組織に対する免疫反応」 ◎「花粉症のしくみ」 「ABO式血液型と抗原抗体反応」		

			するしくみを学ぶ。 ◎ウイルスに感染した細胞がナチュラルキラー細胞やキラーT細胞により細胞死に至るしくみを知る。 ◎主要組織適合性複合体が自己・非自己の認識に関わる目印としてはたらくしくみを理解する。 ◎移植された組織が主要組織適合性複合体により抗原として認識され、拒絶反応が起こるしくみを理解し、免疫抑制についても合わせて学ぶ。 ◎花粉に対する抗体によりアレルギー反応が起こるしくみ理解する。 ・ABO 式血液型の分類と、異型血液の輸血により凝集反応が引き起こされるしくみを理解する。
後期	10	第4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と分布 「地衣類とは」 身近にみられる遷移 「湖沼からはじまる遷移」	28
	11	2章 気候とバイオーム 「気候に適応した植物の生活形」 暖かさの指数を求める 「富士山でみられる植生」 「マングローブ林」 「日本の草原植生」	・植物の生活様式を反映する生活形の意味を知り、各生活形とそれぞれの気候条件の関連性について学ぶ。 ・自分の住む地域の暖かさの指数を求め、バイオームを推測する。 ・富士山の各段階における植生の違いを知り、本州中部のバイオームの垂直分布について学ぶ。 ・熱帯から亜熱帯地域のバイオームであるマングローブ林について学ぶ。 ・日本の草原が人工的に保たれる意味を知る。 ・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて理解し、生態系の保全について学ぶ。 ・ダンゴムシが枯れ葉を分解するようすを撮影し、観察する。
	12	3章 生態系とその保全 枯れ葉の分解の観察 「生態系での物質の移動に人間生活が与える影響」 アサリが水質浄化作用を調べる 「熱帯多雨林の生物多様性」 「小笠原諸島の外来生物問題」	・窒素を例にとって、生態系における物質の移動に人間生活がどのような影響を与えているかを知り、いわゆる環境問題とその解決策について学ぶ。 ・アサリが水質浄化を行う過程をデジタルカメラ等で撮影し、ようすを観察する。 ・東南アジア等に分布する熱帯多雨林における生物多様性を知り、気候条件との関係性を考える。 ・小笠原諸島の例をもとに、外来生物による植生の変化を知り、外来生物のもたらす問題について考える。
		まとめ	
		総 時 間 数	78

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	生物（生物R）	4	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（生物）		

教科書（発行所）	生物（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リードα生物基礎＋生物（数研出版）

目 標	生物や生物現象についての観察実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を養うとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。また、学習内容について、発展的に知識・理解を深める。		
学習のねらい	1 「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育てる。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。		
定 期 考 査	出題方針	教科書及び授業プリントの内容がよく理解できているかどうかを反映される問題を出題する。	
	範 囲 （ 予 定 ）	第1回	生殖と発生
		第2回	動物の刺激の受容と反応、動物の行動、植物の環境応答、個体群と生物群集
		第3回	生態系の物質生産とエネルギーの流れ、生態系と生物多様性、生命の起源と生物の変遷
		第4回	進化のしくみ、生物の系統
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、関心・意欲・態度、思考・判断・表現、実験・観察の技能、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は定期考査を中心にして、演習プリントの提出、実習のレポートを適切に活用して総合的に行う。また、実習においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からの アドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノート の取り方など）	生物や生物現象に関することについて、まず興味を持つことが大切である。授業ごとに、既習事項を復習していく習慣をつけることも重要なことである。ノートについてはしっかりメモを取り、見直したときに復習しやすいノートづくりを心がける。		

年 間 授 業 計 画				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	第4章 生殖と発生 第4節 動物の配偶子形成と受精 ●卵形成・精子形成 第5節 初期発生の過程 ●ウニとカエルの初期発生 第6節 細胞の分化と形態形成 ●誘導と調節遺伝子 第7節 植物の発生	78	・配偶子形成について、減数分裂を踏まえて考察し、卵・精子の特徴を学ぶ。 ・受精のしくみを理解する。 ・ウニとカエルの初期発生の過程を学び、形態形成の仕組みを考える。 ・誘導現象と調節遺伝子の働きを論理的に考察する。 ・植物における受精と胚発生のしくみについて知る。
	5	第5章 動物の反応と行動 第1節 ニューロンとその興奮 ●刺激の受容から行動まで ●ニューロンの構造 ●興奮の伝導と伝達 第2節 刺激の受容 ●受容器と感覚 第3節 情報の統合 ●反射を体感する 第4節 刺激への反応 ●様々な効果器のしくみ 第5節 動物の行動 ●弱電気魚の電気定位 コウモリの反響定位 ●ヒトの脳と行動 探究5 カエルの神経と筋肉の実験		・動物が体内外の情報を得て反応を起こすしくみを学習する。 ・ヒトの場合20～20000Hzであるように、動物ごとに受容できる聴覚の範囲が異なることを図をもとに学ぶ。 ・ヒトにはいわゆるカクテルパーティ効果といった高度な聴覚情報処理能力があることを学ぶ。 ・自分の体で、しつがい腱反射と瞳孔反射を実際に体験する。 ・動物のいろいろな行動とそのしくみについて学習する。 ・視界の効かない濁った水中での弱電気魚の電気定位を学ぶ。 ・飛翔するコウモリの超音波を収録し、コンピュータ解析する。 ・ヒトの脳の重さや圧倒的なニューロンの数について学ぶ。
	6	第6章 植物の環境応答 第1節 植物の反応 ●植物ホルモン 第2節 成長の調節 ●幼葉鞘の光屈性 第3節 花芽形成と発芽の調節 ●花成ホルモンの発見 ●ダイコンの春化 ●植物ホルモンの農業への応用 ●紅葉のしくみと意味 ●天敵を呼び寄せる植物	7	・植物の環境応答の実際とそのしくみについて学習する。 ・ジベレリンがイネの馬鹿苗病菌から発見された歴史を学ぶ。 ・光屈性を解明したダーウィンははじめ3名の研究業績を学ぶ。 ・シロイヌナズナを用い花成ホルモンが同定された歴史を学ぶ。 ・温度条件を変えてダイコンを栽培することで春化を確認する。 ・各植物ホルモンが農業に利用される例を表を用いて学ぶ。 ・落葉樹に見られる紅葉のしくみを学び、意味を考えてみる。 ・昆虫の被害にあった植物が出す揮発性物質の効果を学ぶ。
	7	第7章 生物群集と生態系 第1節～4節 個体群と生物群集 ●個体群の成長と密度効果 ウキクサの増殖の観察 ●移住する昆虫の季節的な増加 ●個体の移動による個体群の存続 ●雌が決める一夫多妻制 ●不妊の個体はなぜ存在するのか？ ●春植物の競争回避 河川流量の変化が及ぼす藻類の多様性		・生物の個体数が変動したり安定したりするしくみを、種内や種間での関係、および環境の影響に注目し学習する。 ・ウキクサの葉状体数の増加を観察し、個体群の成長を調べる。 ・ドビイロウンカを例に移住する昆虫の季節的な増加を学ぶ。 ・カワラノギクを例にそれぞれの生息地であるパッチ間の移動により個体群が存続されるしくみについて学ぶ。 ・縄張りの質の差ががつい関係を決める
	8			
	9			

		第5節 生態系における物質生産とエネルギーの流れ ●深海底の生態系 ●森林による二酸化炭素の吸収 - 生産構造図をつくる ●湖沼における富栄養化	要因になる例を学ぶ。 ・ハダカデバネズミを例に、血縁が非常に強い集団の中に不妊のカースト制が生 じるしくみを学ぶ。 ・春植物が樹木との競争を回避して日光を浴びるしくみを学ぶ。 ・川底の石に付着する藻類を観察し、河川の流量変化に伴う攪乱が生物の数、種類に及ぼす影響について調べる。 ・生態系における有機物の生産やエネルギーの流れと生物とのかかわりについて学習する。 ・化学合成細菌が生産者として成立する深海底の生態系を学ぶ。 ・二酸化炭素吸収が光合成と呼吸の差し引きで決まる事を学ぶ。
後期	10	第6節 生態系と生物多様性 ●イネの遺伝的多様性と病原菌への抵抗性 ●作物の生産を支えるハナバチ類 ●生態系のつながりで増えすぎた野生動物 ●複数の外来生物の問題 ●レッドデータブックと絶滅確率の推定 ●生態系サービスと生物多様性 探究 7 外来生物についての法律と外来生物の観察 第8章 生命の起源の進化 第1節 生命の起源 第2節 生命の変遷 ●大量絶滅 ●鳥類とは何か？ ●大陸移動と生物 - 脳容積の測定 ●フローレス原人の発見	78 ・広葉型・イネ科の照度と乾燥重量を測定し生産構造図をつくる。 ・湖沼の栄養塩濃度の高まりにより富栄養化が生じる事を学ぶ。 ・生物多様性の意味とその減少がおきるしくみについて生態系とのかかわりをもとに学習する。 ・イネのいもち病が混植により減少する事実を例に、種内での遺伝的多様性が、病原菌のまん延を防ぐしくみを学ぶ。 ・ハクガンやシカを例に、人間活動の増加や低下が、野生動物による生態系のつながりを強め、影響を与えるしくみを学ぶ。 ・駆除の際に、外来生物の種間関係を把握する必要性を学ぶ。 ・碁石とサイコロを用いて生物絶滅の模擬実験を行い考察する。 ・絶滅のおそれのある野生生物の生息状況などをまとめたレッドデータブックに記載された絶滅確率などの内容について学ぶ。 ・自然の恵みである4種類の生態系サービスのしくみを学ぶ。 ・現在地球上にみられる多種多様な生物が、誕生後、どのような変遷をたどったか学習する。 ・過去5億年に5回起こったとされる大量絶滅の事実を学ぶ。 ・現在の鳥類は白亜紀末に絶滅を免れた真鳥類である事を学ぶ。 ・生物の分布などの証拠に支えられる大陸移動説について学ぶ。 ・頭骨のレプリカなどを用いて類人猿などの脳容積を測定する。 ・現生人類と同時に存在していたフローレス原人について学ぶ。 ・生物の形質が世代を経るにつれて変化していく進化のしくみについて学習する。 ・ボール、ビー玉、袋などを用いて、遺伝子浮動による遺伝子頻度変化のシミュレーションを行い、結果について考察す
	11	第3節 進化のしくみ ・遺伝子浮動による遺伝子頻度変化のシミュレーション ●ダーウィンと木村資生	

	12	探究 8 自然選択による進化のしくみ 第9章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統 ●細菌と人間 ●熱水噴出孔と古細菌 第2節 原核生物 第3節 原生生物 第4節 植物 ●シダ植物の観察 第5節 動物 第6節 菌類 探究 9 クジラはどの哺乳類に最も近いのか？ まとめ	る。 ・自然選択説のダーウィンと中立説の木村資生について学ぶ。 ・生物の進化の道筋と、地球に生きる生物の多様性との関係性について学習する。 ・細菌と人間のさまざまなかかわり合いについて学ぶ。 ・海底の熱水噴出孔で単離された古細菌の系統について学ぶ。 ・イヌワラビを材料にシダ植物の胞子と配偶体を観察する。 ・動物の分類について知る。 ・菌類の区分について学ぶ。 ・クジラの骨格から類縁の陸上動物について考察する。
		総 時 間 数	156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	理数物理（理数物理Ⅰ）	4	理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（物理）		

教科書（発行所）	物理（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リードα物理基礎・物理（数研出版）、らくらくマスター（河合塾出版） チェック&演習 物理（数研出版）

目 標	物理的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
	1 電気と磁気 (1) 電場 静電気力、電場、電位について理解し、電場の中の物体やコンデンサーについて考察する。 (2) 電流 オームの法則を理解し、電流のはたらきや直流回路の電流の流れを理解する。 (3) 電流と磁場 電流のつくる磁場、電流が磁場から受ける力（ローレンツ力）などを理解する。 (4) 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則を理解し、インダクタンスや交流回路について考察する。 3 原子 (1) 電子と光 光の粒子性や電子の波動性について学び、素粒子について理解を深める。 (2) 原子と原子核 原子の構造とエネルギー単位、原子核と放射線、その性質について学ぶ		
定期考査	出題方針	授業プリント、課題プリント及び実験を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	静電気力、電場、電位、コンデンサーについて考察する問題
		第2回考査	電流、直流回路、電流のつくる磁場、電流が磁場から受ける力（ローレンツ力）の働きなどについて考察する問題
		第3回考査	電磁誘導の法則を理解し、インダクタンスや交流回路、電子のふるまいから物質の性質を考察する問題
		第4回考査	原子の構造について考察する問題と「演習」で取り扱った問題
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、授業プリントの提出、実験レポートを適切に活用して総合的に行う。また実験においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	授業を大切にすること。真剣にメモを取りながら聞き、理解できるところできないところを明確にすること。公式は「覚える」のではなく、それに至った過程を読み返して「納得する」こと。その上で、授業で行った教科書等の問題演習を家庭でもう一度解いてみる。問題解法のパターンがわかれば、物理が楽しくなる。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	[第4編] 電気と磁気 第1章 電場 (1) 静電気力 (2) 電場 (3) 電位 (4) 物質と電場 (5) コンデンサー 第2章 電流 (1) オームの法則 (2) 直流回路 (3) 半導体 第3章 電流と磁場 (1) 磁場 (2) 電流のつくる磁場 (3) 電流が磁場から受ける力 (4) ローレンツ力 第4章 電磁誘導と電磁波 (1) 電磁誘導の法則 (2) 交流の発生 (3) 自己誘導と相互誘導 (4) 交流回路 (5) 電磁波	3	3	・電荷の間にはたらく力について知り、電荷が周囲の空間に影響を与え、電場をつくることを考える。
	5		3	3	・電場は、ベクトルであり、大きさが距離の2乗に反比例することを理解する。
			4	4	・電位の定義を知り、電場と電位の関係を理解する。
			2	2	・静電誘導、誘電分極について理解する。
	6		6	6	・コンデンサーの電気容量とたくわえる電荷、加える電圧との関係を物理的に考える。
後 期	6	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性 第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー単位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子 まとめ	7	7	・電場、電位の考え方をを用いて、電流が流れるしくみや、複雑な回路における電流の流れや電位の関係などを電圧降下などから理解する。
			6	6	・回路における電流の流れについて、キルヒホッフの法則を用いて求めることができる。
			2	2	・半導体について知り、ダイオード、P型、N型半導体の働きを考える。
			2	2	・磁場の定義を理解し、点電荷の作る磁場の向きや大きさを知る。
			2	2	・電流が流れるときにまわりにつくる磁場の大きさについて考える。
	7		4	4	・電流が受ける力の大きさと磁場と交差する角度、電流、磁場の大きさとの関係を理解する。
			3	3	・荷電粒子が磁場から受けるローレンツ力を求める。
			4	4	・電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。
	8		4	4	・交流の発生と交流の表し方を理解する。
			3	3	・自己誘導、相互誘導が起こるしくみを理解し、インダクタンスを考える。
	9	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性 第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー単位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子 まとめ	2	2	・抵抗、コイル、コンデンサーに交流を流したときの電流の流れ方について理解し、リアクタンスを考える。
			2	2	・電磁波が電場・磁場の波としての性質について理解する。
			2	2	・電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。
			3	3	・交流の発生と交流の表し方を理解する。
			3	3	・自己誘導、相互誘導が起こるしくみを理解し、インダクタンスを考える。
	10	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性 第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー単位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子 まとめ	3	3	・抵抗、コイル、コンデンサーに交流を流したときの電流の流れ方について理解し、リアクタンスを考える。
			3	3	・電磁波が電場・磁場の波としての性質について理解する。
			3	3	・電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。
			3	3	・交流の発生と交流の表し方を理解する。
			3	3	・自己誘導、相互誘導が起こるしくみを理解し、インダクタンスを考える。
	11	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性 第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー単位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子 まとめ	2	2	・抵抗、コイル、コンデンサーに交流を流したときの電流の流れ方について理解し、リアクタンスを考える。
			3	3	・電磁波が電場・磁場の波としての性質について理解する。
			3	3	・電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。
	12 1 3	[第5編] 原子 第1章 電子と光 (1) 電子 (2) 光の粒子性 (3) X線 (4) 粒子の波動性 第1章 原子核と素粒子 (1) 原子の構造とエネルギー単位 (2) 原子核 (3) 放射線とその性質 (4) 核反応と核エネルギー (5) 素粒子 まとめ	2	2	・抵抗、コイル、コンデンサーに交流を流したときの電流の流れ方について理解し、リアクタンスを考える。
			3	3	・電磁波が電場・磁場の波としての性質について理解する。
			3	3	・電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。
		総 時 間 数	156		・様々な基礎・応用問題に取り組み、既習事項の総まとめを行う。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	理数物理（理数物理R）	4	理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（物理）		

教科書（発行所）	物理（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リードα物理基礎・物理（数研出版）、物理重要問題集（数研出版） チェック&演習 物理（数研出版）

目 標	物理的な事物・現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
	1 電気と磁気 (1) 電場 静電気力、電場、電位について理解し、電場の中の物体やコンデンサーについて考察する。 (2) 電流 オームの法則を理解し、電流のはたらきや直流回路の電流の流れを理解する。 (3) 電流と磁場 電流のつくる磁場、電流が磁場から受ける力(ローレンツ力)などを理解する。 (4) 電磁誘導と電磁波 電磁誘導の法則を理解し、イグニッションや交流回路について考察する。 3 原子 (1) 電子と光 光の粒子性や電子の波動性について学び、素粒子について理解を深める。 (2) 原子と原子核 原子の構造とエネルギー単位、原子核と放射線、その性質について学ぶ		
定期考査	出題方針	授業プリント、課題プリント及び実験を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	静電気力、電場、電位、コンデンサーについて考察する問題
		第2回考査	電流、直流回路、電流のつくる磁場、電流が磁場から受ける力(ローレンツ力)の働きなどについて考察する問題
		第3回考査	電磁誘導の法則を理解し、イグニッションや交流回路、電子のふるまいから物質の性質を考察する問題
		第4回考査	原子の構造について考察する問題と「演習」で取り扱った問題
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、科学への関心、意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、授業プリントの提出、実験レポートを適切に活用して総合的に行う。また実験においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	授業を大切にすること。真剣にメモを取りながら聞き、理解できるところできないところを明確にすること。公式は「覚える」のではなく、それに至った過程を読み返して「納得する」こと。その上で、授業で行った教科書等の問題演習を家庭でもう一度解いてみる。問題解法のパターンがわかれば、物理が楽しくなる。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	[第4編] 電気と磁気 第1章 電場		3	・ 電荷の間にはたらく力について知り、電荷が周囲の空間に影響を与え、電場をつくることを考える。
	5	(1) 静電気力		3	・ 電場は、ベクトルであり、大きさが距離の2乗に反比例することを理解する。
		(2) 電場		4	・ 電位の定義を知り、電場と電位の関係を理解する。
		(3) 電位		2	・ 静電誘導、誘電分極について理解する。
		(4) 物質と電場		6	・ コンデンサーの電気容量とたくわえる電荷、加える電圧との関係を物理的に考える。
		(5) コンデンサー			
	6	第2章 電流		7	・ 電場、電位の考え方をを用いて、電流が流れるしくみや、複雑な回路における電流の流れや電位の関係などを電圧降下などから理解する。
		(1) オームの法則		6	・ 回路における電流の流れについて、キルヒホッフの法則を用いて求めることができる。
		(2) 直流回路		2	・ 半導体について知り、ダイオード、P型、N型半導体の働きを考える。
		(3) 半導体		2	・ 磁場の定義を理解し、点電荷の作る磁場の向きや大きさを知る。
第3章 電流と磁場			2	・ 電流が流れるときにまわりにつくる磁場の大きさについて考える。	
7	(1) 磁場		4	・ 電流が受ける力の大きさと磁場と交差する角度、電流、磁場の大きさとの関係を理解する。	
	(2) 電流のつくる磁場		3	・ 荷電粒子が磁場から受けるローレンツ力を求める。	
	(3) 電流が磁場から受ける力		4		
	(4) ローレンツ力		3		
	第4章 電磁誘導と電磁波		4	・ 電磁誘導のしくみを理解し、電流が発生するときにコイルや回路を貫く磁束が変化することを理解する。	
後 期	8	(1) 電磁誘導の法則		4	・ 交流の発生と交流の表し方を理解する。
		(2) 交流の発生		3	・ 自己誘導、相互誘導が起こるしくみを理解し、インダクタンスを考える。
		(3) 自己誘導と相互誘導		3	・ 抵抗、コイル、コンデンサーに交流を流したときの電流の流れ方について理解し、リアクタンスを考える。
		(4) 交流回路		4	・ 電磁波が電場・磁場の波としての性質について理解する。
		(5) 電磁波		2	
	9	[第5編] 原子 第1章 電子と光		2	・ 陰極線の性質を理解し、電場や磁場の中での振る舞いから陰極線の正体について推論する。
		(1) 電子		3	・ トムソン・ミリカンの実験から比電荷、電荷、質量が実測されてきた過程を理解する。
		(2) 光の粒子性		3	・ 光電効果、光子仮説について理解する。
		(3) X線		3	・ X線の発生、X線の粒子性とコンプトン効果について理解する。
		(4) 粒子の波動性		3	・ 物質波、ドブロイ波長について学び、電子線の回折について理解する。
10	第1章 原子核と素粒子		3	・ ラザフォードの原子模型と水素原子のスペクトルについて学び、ボーアの理論から説明できることを理解する。	
	(1) 原子の構造とエネルギー単位		4	・ 原子核の構造と放射線を学び、原子核の崩壊について理解する。	
	(2) 原子核		3	・ 半減期、放射能と放射線の測定単位、放射線による影響について理解する。	
	(3) 放射線とその性質		3	・ 核反応と核エネルギーについて理解する。	
	(4) 核反応と核エネルギー		3	・ 物質を構成する基本的要素である素粒子について学び、理解する。	
11	(5) 素粒子				
	まとめ		62	・ 様々な基礎・応用問題に取り組み、既習事項の総まとめを行う。	
12 2 3					
		総 時 間 数			156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	理数化学（理数化学・L）	4	理数科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	化学（実教出版）
教科書以外の教材（発行所）	改訂版 リードα化学（数研出版） 五訂版 スクエア最新図説化学（実教出版） 化学実験と考察 化学（岡山県高等学校理科協議会化学部会）

目 標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。また、発展的な事象も取り扱い、化学的思考力の伸長を図る。		
学習のねらい	1. 無機物質 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 2. 有機化合物 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる 3. 高分子化合物 高分子化合物の性質や反応を探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる		
定期考查	出題方針	問題集及び教科書を中心に出题する。	
	範囲 （予定）	第1回考查	無機化学
		第2回考查	無機化学・有機化学
		第3回考查	有機化学・高分子化学
		第4回考查	総合問題
評価の観点・ 評価の方法	◎ 評価の観点は、科学への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎ 具体的な評価は、定期考查、課題の提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	授業を大切に、復習を教科書の問などできちんとすること。リードα化学などの問題集で復習をする。実験にあたっては注意をよく聞いて、積極的に活動をするように心がける。実験レポートの作成も丁寧にする。演習問題はノートにやり、間違いは直しておく。また、日常的な化学の話題に関心をもつことが大切である。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	単 元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	第3章 無機物質		17	・それぞれの金属の単体や化合物の性質、製法について知る。 ・遷移元素について、単体や化合物の性質、製法について知る。 ・金属イオンの分離の仕方を学ぶ。
		3節 金属元素	・アルカリ金属とその化合物 ・2族元素とその化合物 ・1, 2族以外の典型元素とその化合物 ・遷移元素とその化合物		
	5		・金属イオンの分離と確認		
		4節 無機物質と人間生活	・金属 ・セラミックス ・無機物質の活用	2	・無機物質がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
		第4章 有機化合物		2	・有機化合物の特徴と分類について知る。 ・構造式、示性式の表し方や異性体について知る。
		1節 有機化合物の特徴と分類			
	6		2節 脂肪族炭化水素	10	・脂肪族炭化水素の一般式や製法と性質、異性体、反応性について知る。
		・飽和炭化水素	・不飽和炭化水素		
	7		3節 酸素を含む脂肪族化合物	10	・アルコールや関連化合物など酸素を含む有機化合物の性質を知る ・高級脂肪酸とグリセリンによる油脂やセッケンの製法、性質について知る。
		・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル			
	4節 構造式の決定	・構造式を決定する手順 ・分離・精製と元素分析 ・分子式・構造式の決定	3	・構造式、示性式などの表し方や質量分析による構造式の決定法を学ぶ。	
8		5節 芳香族化合物	10	・ベンゼンの構造を学び芳香族化合物の性質を知る。また芳香族化合物であるフェノール、安息香酸、アニリンなどの性質を知る。 ・芳香族化合物分離の方法を学ぶ。	
	・芳香族炭化水素 ・酸素を含む芳香族化合物 ・窒素を含む芳香族化合物 ・有機化合物の分離				
	9	6節 有機化合物と人間生活	8	・有機化合物がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。	
	・エネルギー ・食品 ・医薬品や洗剤 ・染料				
		第5章 高分子化合物		6	・重合方法を学び様々な合成高分子化合物の製法、性質について知る。
		1節 高分子化合物	・高分子化合物の分類と特徴	10	・合成繊維、合成樹脂について構造やその用途などを知る。 ・機能性高分子やゴムの種類などを学び、その性質を知る。
		2節 合成高分子化合物	・合成高分子化合物の分類 ・合成繊維 ・合成樹脂 ・ゴム ・機能性高分子化合物		
後 期	10	3節 天然高分子化合物	・糖類 ・タンパク質 ・核酸	10	・天然高分子化合物の構造や性質、その用途について知る。
	11			2	・高分子化合物がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
	12	4節 高分子化合物と人間生活	・合成樹脂 ・繊維 ・資源の再利用	66	・センター演習、入試問題など様々な基礎応用問題に取り組み、総まとめを行う。
	1				
	2	まとめ			
		総 時 間 数		156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理科	理数化学（理数化学・R）	4	理数科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一斉授業	理科（化学科）		

教科書（発行所）	化学（実教出版）
教科書以外の教材（発行所）	改訂版 リードα化学（数研出版） 五訂版 スクエア最新図説化学（実教出版） 化学実験と考察 化学（岡山県高等学校理科協議会化学部会）

目 標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。また、発展的な事象も取り扱い、化学的思考力の伸長を図る。		
学習のねらい	1. 無機物質 無機物質の性質や反応を探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる。 2. 有機化合物 有機化合物の性質や反応を探究し、有機化合物の分類と特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる 3. 高分子化合物 高分子化合物の性質や反応を探究し、合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴が理解できるとともに、日常生活や社会と関連づけて考察できる		
定期考査	出題方針	問題集及び教科書を中心に出題する。	
	範囲 （予定）	第1回考査	無機化学
		第2回考査	無機化学・有機化学
		第3回考査	有機化学・高分子化学
		第4回考査	総合問題
評価の観点・ 評価の方法	◎ 評価の観点は、科学への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎ 具体的な評価は、定期考査、課題の提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	授業中に理解しながら覚え、家庭では問題集を利用して復習し身に付けること。 実験にあたっては注意をよく聞いて、積極的に活動をするように心がける。実験書の記入は丁寧にすること。 また、日常的な化学の話題に関心をもつこと。		

年 間 授 業 計 画				
学期	月	単 元	学 習 内 容	学習のポイント
前 期	4	第3章 無機物質		
		3節 金属元素		
		・アルカリ金属とその化合物		・それぞれの金属の単体や化合物の性質、製法について知る。
		・2族元素とその化合物		・遷移元素について、単体や化合物の性質、製法について知る。
		・1, 2族以外の典型元素とその化合物		・金属イオンの分離の仕方を学ぶ。
		・遷移元素とその化合物		
	5	・金属イオンの分離と確認		
		4節 無機物質と人間生活		
		・金属 ・セラミックス		・無機物質がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
		・無機物質の活用		・有機化合物の特徴と分類について知る。
		第4章 有機化合物		
		1節 有機化合物の特徴と分類		・構造式、示性式の表し方や異性体について知る。
	6	2節 脂肪族炭化水素		
		・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素		・脂肪族炭化水素の一般式や製法と性質、異性体、反応性について知る。
		3節 酸素を含む脂肪族化合物		
	7	・アルコールとエーテル		・アルコールや関連化合物など酸素を含む有機化合物の性質を知る
		・アルデヒドとケトン		・高級脂肪酸とグリセリンによる油脂やセッケンの製法、性質について知る。
		・カルボン酸とエステル		
		4節 構造式の決定		
		・構造式を決定する手順		・構造式、示性式などの表し方や質量分析による構造式の決定法を学ぶ。
		・分離・精製と元素分析		
		・分子式・構造式の決定		
	8	5節 芳香族化合物		
		・芳香族炭化水素		・ベンゼンの構造を学び芳香族化合物の性質を知る。また芳香族化合物であるフェノール、安息香酸、アニリンなどの性質を知る。
		・酸素を含む芳香族化合物		・芳香族化合物分離の方法を学ぶ。
		・窒素を含む芳香族化合物		
		・有機化合物の分離		
		6節 有機化合物と人間生活		
	9	・エネルギー ・食品		・有機化合物がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
		・医薬品や洗剤 ・染料		
後 期		第5章 高分子化合物		
		1節 高分子化合物		
		・高分子化合物の分類と特徴		・重合方法を学び様々な合成高分子化合物の製法、性質について知る。
		2節 合成高分子化合物		
		・合成高分子化合物の分類		・合成繊維、合成樹脂について構造やその用途などを知る。
		・合成繊維 ・合成樹脂		・機能性高分子やゴムの種類などを学び、その性質を知る。
		・ゴム ・機能性高分子化合物		
	10	3節 天然高分子化合物		
		・糖類 ・タンパク質 ・核酸		・天然高分子化合物の構造や性質、その用途について知る。
	11	4節 高分子化合物と人間生活		
		・合成樹脂 ・繊維 ・資源の再利用		・高分子化合物がその特徴を活かして、生活の中で利用されていることを学ぶ。
	12	まとめ		
	1			
	2			・センター演習、入試問題など様々な基礎応用問題に取り組み、総まとめを行う。
総 時 間 数			156	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	理数生物（理数生物R）	4	理数科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科（生物）		

教科書（発行所）	生物（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	リードα生物＋生物基礎（数研出版）

目 標	生物や生物現象についての観察実験などを行い，自然に対する関心や探究心を高め，生物学的に探究する能力と態度を養うとともに基本的な概念や原理・法則を理解し，科学的な自然観を身につける。また，学習内容について，発展的に知識・理解を深める。		
学習のねらい	1 「生物基礎」との関連を図りながら，生物や生物現象を更に広範囲に取り扱い，生物学的に探究する能力と態度を身に付けさせる。 2 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ，科学的な自然観を育てる。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探究する能力を育てる。さらに，実験に対する目的，仮説，準備；方法，結果，考察，発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て，生命を尊重する精神を養う。		
定 期 考 査	出題方針	教科書及び授業プリントの内容がよく理解できているかどうかが反映される問題を出題する。	
	範 囲 （ 予 定 ）	第 1 回	動物の刺激の受容と反応、動物の行動、
		第 2 回	植物の環境応答、個体群と生物群集
		第 3 回	生態系の物質生産とエネルギーの流れ、生態系と生物多様性、生命の起源と生物の変遷
		第 4 回	進化のしくみ、生物の系統
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は，関心・意欲・態度，思考・判断・表現，実験・観察の技能，知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は定期考查を中心にして，演習プリントの提出，実習のレポートを適切に活用して総合的に行う。また，実習においては必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からの アドバイス （予習・復習の方法，授業の受け方，ノート の取り方など）	生物や生物現象に関することについて，まず興味を持つことが大切である。授業ごとに，既習事項を復習していく習慣をつけることも重要なことである。ノートについてはしっかりメモを取り，見直したときに復習しやすいノートづくりを心がける。		

年 間 授 業 計 画				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	第 5 章 動物の反応と行動 第 1 節 ニューロンとその興奮 ●刺激の受容から行動まで ●ニューロンの構造 ●興奮の伝導と伝達 第 2 節 刺激の受容 ●受容器と感覚 第 3 節 情報の統合 ●反射を体感する 第 4 節 刺激への反応 ●様々な効果器のしくみ 第 5 節 動物の行動 ●弱電気魚の電気定位 コウモリの反響定位 ●ヒトの脳と行動 探究 5 カエルの神経と筋肉の実験	78	・動物が体内外の情報を得て反応を起こすしくみを学習する。 ・ヒトの場合 20～20000Hz であるように，動物ごとに受容できる聴覚の範囲が異なることを図をもとに学ぶ。 ・ヒトにはいわゆるカクテルパーティ効果といった高度な聴覚情報処理能力があることを学ぶ。 ・自分の体で，しつがい腱反射と瞳孔反射を実際に体験する。 ・動物のいろいろな行動とそのしくみについて学習する。 ・視界の効かない濁った水中での弱電気魚の電気定位を学ぶ。 ・飛翔するコウモリの超音波を収録し，コンピュータ解析する。 ・ヒトの脳の重さや圧倒的なニューロンの数について学ぶ。
	5			
	6	第 6 章 植物の環境応答 第 1 節 植物の反応 ●植物ホルモン 第 2 節 成長の調節 ●幼葉鞘の光屈性 第 3 節 花芽形成と発芽の調節 ●花成ホルモンの発見 ●ダイコンの春化 ●植物ホルモンの農業への応用 ●紅葉のしくみと意味 ●天敵を呼び寄せる植物		・植物の環境応答の実際とそのしくみについて学習する。 ・ジベレリンがイネの馬鹿苗病菌から発見された歴史を学ぶ。 ・光屈性を解明したダーウィンをはじめ 3 名の研究業績を学ぶ。 ・シロイヌナズナを用い花成ホルモンが同定された歴史を学ぶ。 ・温度条件を変えてダイコンを栽培することで春化を確認する。 ・各植物ホルモンが農業に利用される例を表を用いて学ぶ。 ・落葉樹に見られる紅葉のしくみを学び，意味を考えてみる。 ・昆虫の食害にあった植物が出す揮発性物質の効果を学ぶ。
	7	第 7 章 生物群集と生態系 第 1 節～4 節 個体群と生物群集 ●個体群の成長と密度効果 ウキクサの増殖の観察 ●移住する昆虫の季節的な増加 ●個体の移動による個体群の存続 ●雌が決める一夫多妻制 ●不妊の個体はなぜ存在するのか？ ●春植物の競争回避 河川流量の変化が及ぼす藻類の多様性		・生物の個体数が変動したり安定したりするしくみを，種内や種間での関係，および環境の影響に注目し学習する。 ・ウキクサの葉状体数の増加を観察し，個体群の成長を調べる。 ・ドビイロウンカを例に移住する昆虫の季節的な増加を学ぶ。 ・カワラノギクを例にそれぞれの生息地であるパッチ間の移動により個体群が存続されるしくみについて学ぶ。 ・縄張りの質の差がしつがい関係を決める要因になる例を学ぶ。 ・ハダカデバネズミを例に，血縁が非常に強い集団の中に不妊のカースト制が生じるしくみを学ぶ。 ・春植物が樹木との競争を回避して日光を浴びるしくみを学ぶ。 ・川底の石に付着する藻類を観察し，河川の流量変化に伴う攪乱が生物の数，種類に及ぼす影響について調べる。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
理数	サイエンス実践	1	普通科	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選	一斉授業	理科		

教科書（発行所）	物理（数研出版）、化学（実教出版） 生物（数研出版）
教科書以外の教材（発行所）	なし

目 標	自然に関する関心や探究心を高め、物理学・化学・生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
学習のねらい	2年次までに学習した、物理・化学・生物の内容を中心に行い、生徒の自発的な学習への取り組みを促し、学習意欲の向上を図る。		
定期考査	出題方針	課題解決の過程を中心に出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	
		第2回考査	課題解決学習（前半、授業内で実施）
		第3回考査	
		第4回考査	課題解決学習（後半、授業内で実施）
評価の観点・ 評価の方法	◎評価の観点は、科学への関心・意欲・態度、科学的な見方や考え方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。 ◎具体的な評価は、定期考査、提出物等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	授業プリントはきちんと保存し、教科書を使ってその日取り組んだ課題についての復習をする。演習問題はノートにやり、間違いは直しておく。また、日常的な科学の話題に関心をもつことが大切である。		

年 間 授 業 計 画					
学期	月	単元	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	ガイダンス	分野の選択	3	・ 物理分野・化学分野・生物分野から，2分野を選ぶ。 ・ 各自2年次までに学習した内容から選択した2分野の課題をそれぞれ設定し，年間計画を作成する。 ・ 各分野の課題について，2年次までに学習した内容を確認しながら課題を解決する。
	5	課題の実践		16	
	6				
	7				
	9				
後期	10	課題の実践		12	・ 各分野の課題について，2年次までに学習した内容を確認しながら課題を解決する。
	11			6	
	12				
	1	まとめ			
	2				
	3				
		総時間数		39	

教科名	科目名	単位数	科	履修年次
保健体育	体 育	2	普通科 理数科	3
履修形態		授業形態		指導者名
男女別		普通科2クラス合併1 普通科2クラス合併1 普通科1クラス・理数科1クラス合併1		保健体育科
教科書(発行所)				
教科書以外の教材(発行所)		健康スポーツ・個人日誌(独自作成教材) ステップアップ高校スポーツ(大修館)		
目 標		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
学習のねらい (基本的な考え方)		1 陸上競技 (1) 自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりする事ができるようにする。 (2) 互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 (3) 自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようにする。また、競技会の企画や運営ができるようにする。		
		2 球技 (1) チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 (2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 (3) チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようにする。また、競技会の企画や運営ができるようにする。		
		3 武道 (1) 自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。 (2) 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができるようにする。 (3) 自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や、試合の仕方を工夫することができるようにする。		
		4 ダンス (1) 自己の能力に応じた課題を持って次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、交流し、発表することが出来るようにする。 (2) 互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、発表したりすることが出来るようにする。		
		5 体育理論 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解する。		
定期考査		な し		
評価の観点 評価の方法		○評価の観点は、体育への関心・意欲・態度、自分やチームの能力に応じた課題を設定して努力しているかという思考・判断、実践している運動種目の特性に応じた技能を身に付けているかという運動の技能、実践している種目の特性に応じ、効果的な練習の仕方・ルール・審判法・競技会の企画・運営の仕方を理解し、知識を身に付けているか。 ○評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価していく。 ○毎時間が評価の対象であり、学期に数回の技能テストも行う。		
		○事前に授業内容を聞きに来る。 ○更衣を早くし、授業には遅刻をしない。 ○自己健康管理をし、体調の悪い時は担当教師に申し出る。 ○体操服・体育館シューズ等の忘れ物をしない。		

年間授業計画表(男女)					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
前 期	4	オリエンテーション		1	授業を受けるに当たっての注意
		新体力テスト	握力・長座体前屈・上体おこし・反復横とび・持久走・50m走・ハンドボール投・立ち幅跳び・シャトルラン	3	お互い協力しながら手際よく測定できるようにする。
	5	選択体育	選択種目	31	生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする。 安全に留意し、お互い協力しながら練習・ゲームを行う。 常に技術習得を意識しながら、練習、ゲームを行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。
	6		1. バレーボール 2. ソフトボール 3. サッカー 4. バドミントン 5. 卓球 6. テニス 7. ソフトテニス 8. ダンス 9. 武道		
	7				
	9	体育理論	豊かなスポーツライフの設計	4	生涯スポーツの見方・考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ
後 期	10		選択種目		
	11	選択体育	1. バスケッボール 2. ソフトボール 3. サッカー 4. バドミントン 5. 卓球 6. テニス 7. ソフトテニス 8. ダンス 9. 武道		生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする。 安全に留意し、お互い協力しながら練習・ゲームを行う。 常に技術習得を意識しながら、練習、ゲームを行い、グループ内では役割を分担しながら学習を進める。
	12			36	
	1				
	2	体育理論	豊かなスポーツライフの設計	3	日本のスポーツ振興 スポーツと環境
	3				
			総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次
芸術	ソルフェージュ		2	普通	3
履修形態		授業形態	指導者名		
全		一斉授業	芸術科		
教科書（発行所）		Joy of Music（教育芸術社）			
教科書以外の教材		なし			

目 標	音楽の基礎能力とされる音感、リズム感、和声感、読譜感の育成を目指し、総合的音楽能力を高めることを到達目標とする。
学習のねらい	1 楽典の基礎知識を実際の音と結びつけることで音楽的理解を深める。 2 書き取りは単線律とし、リズムの拍単位で行うことにより、正しいリズム感覚を養う。 3 音楽的な表現のために読譜を行う。 4 視唱はフレーズ付きで行い、和声の理解を深めるためにカデンツ奏も行う。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫の3項目とする。 ○ 観点別到達度、聞き取りの完成度の判定の2つのポイントを総合して評価する。
先生からの アドバイス	・音や音楽に対する興味や関心を日頃からもち、意欲的に表現しようとするのが大切です。 ・自分の進路を見据えてしっかりと音楽の知識を深める努力をしてください。 ・音楽の基礎理論や楽器などに対する知識の充実により、音楽の楽しみは更に深まります。音楽をより深く知るために、多少高度な音楽理論を身につけましょう。

年 間 授 業 計 画 表				
学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	旋律聴音 調号1つ		調号1つの長・短調に慣れる。
	5	新曲視唱 コーリューブンゲン 旋律聴音 調号2つ		受験で必要とされる中級程度の練習曲で、より正確な音感を鍛える。 楽譜の正しい書き取りを身につける。細かい表現まで聞き取る力を養う。
	6,7	楽典 音程・近親調		音程・音階、関係調等について理解し応用ができるようにする。
期		旋律聴音 調号3つ		調号3つの長・短調に慣れる。
	9	楽典 移調 コーリューブンゲン 新曲視唱 旋律聴音 調号4つ		移調・転調など高度な音楽知識を理解する。 ソルフェージュは前期の継続。
	10			調号4つの長・短調に慣れる。
後	11	楽典 調の判定		非和声音を理解し、調の判定をする。
	12	コーリューブンゲン		
	1			
期	2			
		(便宜的に前期後期と分けているが、受験生対象なので、以上のような内容を通年継続的に行う。)		
	3			
		総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
芸術	音楽Ⅲ	2	普通	3
履修形態	授業形態	指導者名		
全	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	Joy of Music（教育芸術社）
教科書以外の教材	なし

目 標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
学習のねらい	1 歌唱 曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現している。基本的な発声法を習得し、歌うことの楽しさを感じ取る。様々な国や地域の歌に親しむ。 2 器楽 いろいろな楽器を体験し、視奏力を伸ばすとともに、曲の構成及び曲想の把握と奏法や表現の工夫を図る。弦楽器の基本奏法を習得し、その特長をや音色の美しさを感じ取る。視奏でスコアリーディングの力をつける。 3 創作 いろいろな音階による旋律の創作や、旋律に対する和音の工夫、いろいろな音素材による即興的表現の体験をする。楽譜に対する基礎知識の充実。 4 鑑賞 さまざまな鑑賞を通して、声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲を成立させた歴史的背景を学ばせる。我が国の伝統音楽や、世界の諸民族の音楽の種類と特徴について学習する。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 観点別到達度、演奏の完成度の判定、鑑賞能力判定、自己評価（自己計画性）の4つのポイントを総合して評価する。 ○ 演奏に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。
先生からのアドバイス	・音や音楽に対する興味や関心を日頃からもち、意欲的に表現しようとするのが大切です。 ・様々な音楽に意欲的にふれることで今まで未知であった音楽に対する発見があり、嗜好する音楽の視野を広げるきっかけができます。どんな分野の音楽も積極的に取り組みましょう。 ・作品として形に残らないものですが、だからこそ発表までの過程が大切であり、それを発表することで自信や集中力を身に付けて欲しいと思います。 ・自分の進路を見据えてしっかりと音楽の知識を深める努力をしてください。 ・音楽の基礎理論や楽器などに対する知識の充実により、音楽の楽しみは更に深まります。音楽をより深く知るために、多少高度な音楽理論を身につけましょう。

年間授業計画表				
学期	月	学 習 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
前	4	呼吸・発声	3	様々な歌唱の可能性を広げるために、正しい呼吸と発声方法を身につける。
	5	ソルフェージュ 新曲視唱・初見視奏・伴奏付け コールユーブンゲン 聴音	10	受験で必要とされる中級程度の練習曲で、より正確な音感を鍛える。 楽譜の正しい書き取りを身につける。細かい表現まで聞き取る力を養う。 楽譜から読みとれる音楽の曲想を感じ取り、表現方法を工夫する。
	6,7	楽典	8	表現記号や強弱記号について常用されるものはすべて理解する。 音程・音階、関係調等について理解し応用ができるようにする。
期		芸術歌曲 イタリア歌曲、ドイツ歌曲	4	曲想や言語の語感を感じ取り、発音や意味も正確に習得しながら表現豊かに歌唱する。各国の歌曲の歌い方の特徴を理解する。
	9	器楽 ピアノ練習	14	ピアノの基本練習法をきちんと習得し、早く、しかし丁寧に曲を仕上げられるようにする。 楽譜を読み取りながら自ら表現を工夫し、実現する力をつける。
	10	音楽史 独奏曲、協奏曲、交響曲などの鑑賞	10	意欲的に聴取し、それぞれの旋律の美しさや曲想の特徴を感じ取る。
後	11	日本の歌曲 かやの木山 この道など	4	自国の音楽の独創性や美しさを味わう。日本語の発声法について学び、言葉の美しさを味わいながら表現豊かに歌唱する。
	12	楽典 ソルフェージュ	9	移調・転調など高度な音楽知識を理解する。
	1		12	ソルフェージュは前期の継続
期	2	日本の音楽 箏曲・尺八・三味線	4	我が国の伝統音楽を鑑賞し、その民族性や美しさを味わう。 琴、尺八の体験をし、基本的奏法を習得する。自国の音楽に対する誇りを培う。
	3	（便宜的に前期後期と分けているが、受験生対象なので、以上のような内容を通年継続的に行う。）		
		総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
美術	素描	2	普通	3
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	芸術科		

教科書（発行所）	高校美術3（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目 標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
学習のねらい	1 絵画表現・石膏素描基礎 石膏像を鉛筆や木炭で限られた時間内で完成させる技術を養う。どんな石膏像でもあらゆる角度、光の条件の下で、正確な形の描写と空間表現が可能にする力を身につける。 習熟度に応じて題材を設定し、着実な技術力の向上をめざす。 2 絵画表現・静物素描基礎 様々なモチーフを、限られた時間の中でデッサンする力を身につける。B3版の画用紙やケント紙、木炭紙など、あらゆる紙に対応できる技術力と描写力を養成する。 また自分で描きたいテーマを決めてモチーフを設定し、自分の個性に応じた水準の高い作品を完成させることができる。 3 絵画表現・構成素描 モチーフを自分で自由に設定し、与えられたテーマを組み合わせで想定デッサンできる応用力を養う。進学に対応できる高度な技術力を身につける。 自画像をモチーフに、表現したいテーマに沿って他のモチーフと構成し、表現力の高い自画像の大作を制作する。表現したいテーマがはっきりと画面で主張できるように、作者の内面性を追求した密度の高い作品に仕上げる。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 自分の技術のレベルにあわせてテーマを設定し、完成された作品を基に次の課題を設定していく。進学に対応できる技術力を養うことを第一の目的とし、作品とともに取り組みの姿勢について観点評価に加える。

先生からのアドバイス	・素描は、美術系大学への進学を目的とし、高い技術力を養うための講座です。これまでの技術力をベースに向上心を持って取り組みましょう。 ・それぞれの習熟度に応じてテーマを設定します。一つ一つの制作を大切にし、批評された言葉を次の制作に生かす気持ちが大切です。 ・絵画やデザイン、彫刻などの選考に応じてテーマを設定し、受験に対応します。
------------	---

年 間 授 業 計 画 表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	1 絵画表現・石膏素描基礎	18	絵画表現におけるデッサンの重要性に気づき、観察力や集中力、粘り強さが必要であることを知る。デッサンの基礎を固めたうえで、鉛筆や木炭のトーンの違いによる立体表現を学び、その奥深さを知る
	5	石膏像を鉛筆でデッサンする。用具の使用方法を理解し、初歩的な考え方と技法を学ぶ。基本となる造形要素を理解し、表現方法を学ぶ。		
	6	2 絵画表現・静物素描基礎	21	視覚的な情報をできるだけ正確に伝達するためのデッサンの必要性を知りそのための初歩的な考え方と、試行錯誤しながら鉛筆でトーンをつける技術を学ぶ。 二点透視方の考え方や消失点の意識を持つことで、画面における空間の感覚を身につけ、デッサンにおける立体表現に遠近法がいかに重要であるかを知る。
	7	鉛筆で卓上にあるモチーフをデッサンする。形・質感・色などの特徴を正確に捉え表現する。幾何形体を遠近法を用いて表現する方法を学ぶ。		
	8	鉛筆で静物モチーフをデッサンする。遠近法を用いた形体の捉え方を学び、それぞれの特徴を正確に表現する。木炭によるデッサンも試みる。		
後 期	9			
	10	1 絵画表現・構成素描	12	手の写実的なデッサンをもとに、構図やその他のモチーフとの組み合わせを工夫することで、自分のイメージの中の世界を表現することができる。
	11	鉛筆による構成デッサン（手と自由モチーフ） 木炭紙大が用紙に、自分のイメージに合わせて手の描写と自由なモチーフを想定して構成しデッサンする。		
	12	これまでに学んできた素描の基本的な考え方を整理し、自分の習熟度に合わせて様々なモチーフに挑戦して描く。	12	鉛筆素描の楽しさを知り、どんな題材でも表現できる技術を身につける。
	1	鉛筆と木炭の画材の特性を十分に理解し、それぞれにあったトーンの美しさを作品で表現することができる。木炭紙大の素描が限られた時間内で完成できるようにする。	15	3年間の素描の集大成としての知識と自分の技量を発揮し、完成度の高いデッサンができるようになる。またさらに上達するために何が必要かを自分で考え、工夫していく力を身につける。
総時間数			78	

教科名	科目名（校内科目名）		単位数	科	履修年次
芸術	美術 III		2	普通	3
履修形態	授業形態		指導者名		
選択	一斉授業		芸術科		

教科書（発行所）	高校美術3（日本文教出版）
教科書以外の教材	なし

目 標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
学習のねらい	1 素描・鑑賞 素描の形態の正確な把握力、素材・質感の表現力、空間に対する意識、構成力を養い、応用力を身に付ける。 各大学の入試に合わせたモチーフと描画材を選択して制作に取り組ませる。 2 絵画制作 AO・推薦入試に必要とされる持参作品を分野別に制作させる。 3 鑑賞 AO・推薦入試の面接、小論文に向けて作家研究、歴史研究等の対策をする。
評価の観点 評価の方法	○ 評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、芸術的な感受や表現の工夫、創造的な表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。 ○ 絵画、素描のどちらを選択するかについては進学先を含めた本人の意思で決定する。絵画は関心・意欲・態度に評価の重点を置き、素描は表現の技能に重みを持たせる。素描初歩と基礎では、初歩の段階が充分に習得できた段階で発展させるため、評価にも若干段階をつける。
先生からの アドバイス	・目的意識を持って授業にのぞむことが大切です。受験対策を楽しむ気持ちで取り組むのがよいと思います ・受験対策であっても自己表現として自由な精神を持って、造形の魅力や芸術的価値を追究してもらいたいと思います。

年間授業計画表				
学 期	月	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
1	4	1 素描初歩 表現 ・生徒が本来持っている描写力をはかるため、1学期間をかけて石膏像を鉛筆でデッサンする。 ・素描の難しさと大切さを知る。	26	・自分が持っている描写の力量を知り、よいデッサンができるためには、優れた観察力と集中力、粘り強さが必要なことを知ろう。 ・日頃から、日常の光景を気にとめる心を大切にし、描きたいという気持ちを持とう。 ・大作に取り組むことで、絵画表現の難しさと楽しさを味わおう。 ・大作に取り組むことで、絵画表現の難しさと楽しさを味わおう。 ・石膏デッサンの基礎的な技法を学び、経験を積もう。立体把握に必要な要素を理解し、枚数を重ねるごとにひとつひとつ問題点を解決していく力を養おう。
	5	2 絵画表現 ・学校周辺の風景から、自然と生活感のある場所を探し写真撮影する。		
	6	・F50号のキャンヴァスに木炭でデッサンし、画面を大きくしめるところから着色していく。		
	7	3 素描基礎 表現 ・石膏像を3枚デッサンする。構図の取り方、形態の正確な把握、鉛筆のトーンの変化による立体感の表現方法を学ぶ。		
2	9	1 絵画表現 ・F50号油彩の制作を継続する。全体のバランスを考えて着色し、躍動感のあるダイナミックな表現を楽しむことができる。	26	・限られた時間内に、準備と片付けを手際よく進め、少しでも多く制作できるようになろう。 ・失敗をおそれず、混色を楽しみながら大胆に色を乗せることができるようになるろう。 ・日頃生活の中で見慣れている生活用品でも、描写しようとするとなかなかうまくいかない。ものを見つめる観察力を磨き、形態や質感に興味を持とう。 ・できるだけ作品の枚数を重ね、経験を積むことでデッサンに対する姿勢を身につけよう。 ・鉛筆の使い方に慣れ、鉛筆の種類によるトーンの変化が使い分けられるようになるろう。
	10	2 素描初歩 表現 ・1学期の経験をもとに、卓上にモチーフを構成して鉛筆でデッサンする。 ・完成した作品例を見ながら、最初は模倣から始め、構図の取り方や鉛筆によるトーンの付け方を学ぶ。 ・出来るだけたくさんの作品を完成させ、作品例を見ずに自分で描写できるようになる。		
	11	3 素描基礎 表現 ・1学期に学んだ石膏デッサンの基礎をもとに、様々な形態や質感を持つ静物モチーフを、鉛筆で描写する。 ・木炭を使った石膏デッサンをすることで、木炭独特のトーンの変化や立体把握の方法を学び、技法の幅を広げることで素描の基礎を固める。 ・どんなモチーフにも臆せず描写する意欲をはぐくむ。		
	12			・石膏デッサンで学んだ立体表現の基礎をからさらに発展させて、様々な素材で構成された静物モチーフをデッサンすることで、絵画表現に必要な空間に対する意識を養おう。 ・描画材料を木炭に変えることで、表現方法に幅を持たせながらも、基本的には立体の把握の仕方に違いのないことを知ろう。

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
英語	THR (R)	1	普通科	3
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
全		一斉授業・習熟度別授業	英語科	

教科書（発行所）	
教科書以外の教材（発行所）	Clues to Reading 英文和訳の徹底演習（数研出版）

目 標	英語の学習分野全体をバランスよく伸ばす。英文の内容を短時間に大まかにつかみ、全体の要旨をまとめる力を育てる。幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回	
		第2回	Clues to Reading 1～10
		前期末考査	
		第3回	
		第4回	Clues to Reading 11～15, 大学入学対策演習
定期考査	年度末考査		
評価の観点・評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	徹底的に反復学習する。予習・授業・復習という学習スタイルが入試を攻略する英語力につながります。すぐに辞書に頼らずに、入試さながらに、まずは、自力のみで英文を読む習慣をつけましょう。速読、パラグラフリーディングなど、多量の英文を速く正確に読み、要旨をつかむ練習をしていきましょう。		

年間授業計画表						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	1	基本構造を見抜く(1)	2	「意味のかたまり」を意識する	
		2	基本構造を見抜く(2)	2	副詞句、名詞句	
	5	3	注意すべき that の用法を見分ける	2	接続詞、同格	
		第1回考査				
	6	4	注意すべき it の用法を見分ける	2	強調構文、既出の it	
		5	関係代名詞は代名詞(1)	2	かたまりを見抜く	
		6	関係代名詞は代名詞(2)	2	かたまりを見抜く	
		7	意味上の主語を見抜く	2	不定詞、動名詞、分詞構文	
	7	8	文末の分詞構文を見抜く	2	具体化・補足	
		9	比較対象を見抜く(1)	2	省略・倒置	
		10	比較対象を見抜く(2)	2	no は差が 0	
		第2回考査				
	9	11	名詞構文を見抜く	2	形容詞の名詞化	
		前期末考査				
	後期	10	12	倒置を見抜く(1)	2	元の形を考える
13			倒置を見抜く(2)	2	nor, only	
14			省略を見抜く	2	(even) if、倒置	
15			その他の重要事項	2	as though, otherwise, 言い換え	
11		第3回考査				
			大学入試対策演習	7	入試発展レベルの英文読解力を養成する	
		第4回考査				
			大学入試対策演習	2	入試発展レベルの英文読解力を養成する	
		総時間数			39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
英語	THR (L)	1	普通科	3
履修形態		授 業 形 態		
全		一斉授業・習熟度別授業		
指導者名		英語科		
教科書（発行所）				
教科書以外の教材（発行所）		Viewpoint Standard 英文読解の着眼点（数研出版）		

目 標	英語の学習分野全体をバランスよく伸ばす。英文の内容を短時間に大まかにつかみ、全体の要旨をまとめる力を育てる。幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
学習のねらい	・コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現できるようにする。 ・日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解できるようにする。 ・日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第 1 回	
		第 2 回	Viewpoint Standard 1 ～ 10
		前期末考査	
		第 3 回	
		第 4 回	Viewpoint Standard 11 ～ 15, 大学入学対策演習
		年度末考査	
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	徹底的に反復学習する。予習・授業・復習という学習スタイルが入試を攻略する英語力につながります。すぐに辞書に頼らずに、入試さながらに、まずは、自力のみで英文を読む習慣をつけましょう。速読、パラグラフリーディングなど、多量の英文を速く正確に読み、要旨をつかむ練習をしていきましょう。		

年間授業計画表						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	1	名詞（句）＋前置詞＋～／形容詞＋～， 名詞（句）＋関係代名詞＋～	2	「意味のかたまり」を意識する	
		2	名詞（句）＋分詞句， 名詞＋SV	2	「意味のかたまり」を意識する	
	5	3	and, but, or	2	「意味のかたまり」を意識する	
		第1回考査				
	6	4	副詞句	2	「意味のかたまり」を意識する	
		5	that＋完全な文	2	「意味のかたまり」を意識する	
		6	and, but, or	2	「意味のかたまり」を意識する	
		7	what 節	2	「意味のかたまり」を意識する	
	7	8	前置詞＋動名詞句， 前置詞＋名詞節	2	頻出テーマをマスターする	
		9	同格	2	頻出テーマをマスターする	
		10	省略表現	2	頻出テーマをマスターする	
		第2回考査				
	9	11	名詞構文	2	頻出テーマをマスターする	
		前期末考査				
後期	10	12	強調構文	2	頻出テーマをマスターする	
		13	倒置	2	頻出テーマをマスターする	
		14	呼応関係	2	頻出テーマをマスターする	
		15	分詞構文	2	頻出テーマをマスターする	
	11	第3回考査				
			大学入試対策演習	7	入試発展レベルの英文読解力を養成する	
		第4回考査				
			大学入試対策演習	2	入試発展レベルの英文読解力を養成する	
		総時間数			39	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	英語表現Ⅱ (R)	2	普通科 理数科	3
履修形態		授 業 形 態		指 導 者 名
全		一斉授業・習熟度別授業		英語科

教科書（発行所）	Departure English Expression Ⅱ（大修館）
教科書以外の教材（発行所）	Write to the Point（数研出版）

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。		
学習のねらい	・与えられた条件に合わせて、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 ・主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりする。 ・多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。		
定期考査	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回	Departure Lesson 1 ～ 10 Write to the Point 1 ～ 9
		第2回	Departure Lesson 11 ～ 20 Write to the Point 10 ～ 17
		第3回	大学入学対策演習
		第4回	大学入学対策演習
		年度末考査	
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は、関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)	必ず事前に予習をすること。その時、日本語から「言いたいこと」を考え、場面にあった英文を書くように心がけること。授業では、間違っただ点を「なぜ使えないのか」ということをしっかり理解しながら、他の表現についても学習します。何度も音読暗写をし、力をつけていきましょう。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
前 期	4	1	目的・意図	15	表現別に英語を書けるようにする
		2	原因・理由		
		3	結果・程度		
		4	条件		
	5	5	仮定・願望・依頼		
		6	譲歩・対立（1）		
		7	譲歩・対立（2）		
		8	否定		
		9	比較・比例（1）		
		10	比較・比例（2）		
後 期		第1回考査			
	6	11	関連・除外・様態	15	表現別に英語を書けるようにする
		12	受身・使役・可能		
		13	時間・数量・習慣		
		14	強調・疑問・推測		
	7	15	当然・助言・命令		
		16	自然・社会		
		17	文化・言語		
		18	人生・日常		
		19	健康・趣味		話題別に英語を書けるようにする
		20	通信・情報		
後 期		第2回考査			
	8		自由英作文・課題英作文	3	
	9		大学入試対策演習	6	
	10		大学入試対策演習	3	
	11	第3回考査			
			大学入試対策演習	18	
			センター試験対策		
	12		センター試験対策		
	1	第4回考査			
			センター試験対策 大学入試対策演習	18	
	2				
		年度末考査			
			総時間数	78	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ （R）	4	普通科文系	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一斉授業・習熟度別授業	英語科		

教科書（発行所）	Grove English Communication Ⅲ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 4（Z会出版） Heart and Mind [Complete] 感動する心と考える知性（-est出版） 大学入試完全後略講座② 英語長文演習【完成編】（桐原書店）

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。		
学習のねらい	・事物に関する紹介や報告，対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 ・説明，評論、物語，随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ・聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて話し合うなどして結論をまとめる。 ・聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。		
定期考查	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に、問題集，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回	NEW TREASURE： Lesson 11， Heart and Mind：Lesson 1～9
		第2回	Heart and Mind：Lesson 9～18
		第3回	Heart and Mind：Lesson 19～22 大学入学対策演習
		第4回	大学入学対策演習
		年度末考查	
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は，関心・意欲・態度，表現の能力，理解の能力，知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は，定期考查を中心に，授業の中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート の取り方など)	徹底的に反復学習する。予習・授業・復習という学習スタイルが入試を攻略する英語力につながります。すぐに辞書に頼らずに，入試さながらに，まずは，自力のみで英文を読む習慣をつけましょう。速読，パラグラフリーディングなど，多量の英文を速く正確に読み，要旨をつかむ練習をしていきましょう。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
前 期	4	NT1	オーストラリア先住民の生活事情について学ぶ	8	様々な形の仮定法
		1	愛	3	論理的思考力を高める
		2	愛	3	論理的思考力を高める
		3	幸福	3	論理的思考力を高める
		4	幸福	3	論理的思考力を高める
		5	幸福	3	論理的思考力を高める
	5	6	結婚	3	論理的思考力を高める
		7	結婚	3	論理的思考力を高める
		8	結婚	3	論理的思考力を高める
	第1回考查				
	6	9	絶望	3	論理的思考力を高める
		10	絶望	3	論理的思考力を高める
		11	絶望	3	論理的思考力を高める
		12	新世界	3	論理的思考力を高める
		13	新世界	3	論理的思考力を高める
		14	新世界	3	論理的思考力を高める
	7	15	コントロール	3	論理的思考力を高める
		16	コントロール	3	論理的思考力を高める
		17	対立	3	論理的思考力を高める
		18	対立	3	論理的思考力を高める
	第2回考查				
	8	19	情	4	論理的思考力を高める
		20	情	4	論理的思考力を高める
	9		大学入試対策演習	8	英語を正しく読む力を伸ばす
後 期	10		大学入試対策演習	38	入試標準レベルの英文読解力を養成する
		第3回考查			
			大学入試対策演習	37	国公立二次試験レベルの英文読解力を養成する
	12	第4回考查			
			大学入試対策演習	3	国公立二次試験レベルの英文読解力を養成する
		総時間数			156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ (C 英語Ⅲ・L)	4	普通科文系	3
履修形態		授 業 形 態		
全		一斉授業・習熟度別授業		
		指 導 者 名		
		英語科		

教科書（発行所）	Grove English Communication Ⅲ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	英語長文演習 Applause vol.4（美誠社） Clues to Reading Standard（数研出版）

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。		
学習のねらい	・事物に関する紹介や報告，対話や討論などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。 ・説明，評論，物語，随筆などについて，速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また，聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ・聞いたり読んだりしたことを，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて話し合うなどして結論をまとめる。 ・聞いたり読んだりしたことを，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，まとまりのある文章を書く。		
定期考査	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に，問題集，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第 1 回	Grove English Communication Ⅲ： Lesson 14~17
		第 2 回	Grove English Communication Ⅲ： Lesson 18~21
		第 3 回	英語長文演習 Applause vol.4 :Lesson 1～12 Clues to Reading Standard：Lesson 1～9
		第 4 回	英語長文演習 Applause vol.4：Lesson 13～20 Clues to Reading Standard:Lesson 10～15
定期考査	年度末考査		
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は，関心・意欲・態度，表現の能力，理解の能力，知識・理解の 4 項目とする。 ○ 具体的な評価は，定期考査を中心に，授業の中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノートの取り方など)	徹底的に反復学習する。予習・授業・復習という学習スタイルが入試を攻略する英語力につながります。すぐに辞書に頼らずに，入試さながらに，まずは，自力のみで英文を読む習慣をつけましょう。速読，パラグラフリーディングなど，多量の英文を速く正確に読み，要旨をつかむ練習をしていきましょう。		

年間授業計画表					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	L14	The Rose Valley	3	バラの谷と呼ばれる地域がなぜバラの栽培に適しているかに注意して、英文を読む。 バラの油がなぜ「液体の金」と呼ばれているか意識して英文を読む。
		L15	The French School Lunch	3	フランス人にとって、昼食はどのようなものかに注意して、英文を読む。 フランス人は給食で何を食べるか意識して英文を読む。
	5	L16	EcoScraps	3	エコスクラップ社の販売手順に注意して、英文を読む。 ダンがエコスクラップ社のアイデアを思いついたのはいつ、どこだったか意識して英文を読む。
		L17	Lost Olympic Sports	3	オリンピックで除外された 3 つのスポーツとその理由に注意して、英文を読む。
	第 1 回考査				
	6	L18	Afghan children Dream of Musical Future	3	アフガニスタン国立音楽学校が設立された経緯に注意して、英文を読む。 そこで学ぶ 2 人の生徒が置かれた状況を意識して英文を読む。
		L19	Sleep Position And Personality	3	寝るときの 6 つの姿勢と性格の傾向に注意して、英文を読む。
	7	L20	El Anatsui	3	エル・アナツイの作品の特徴に注意して、英文を読む。 なぜ彼が作品にビンのふたや飲み物のシールを使うかに意識して英文を読む。
		L21	A Name for My Cat	3	猫の名前の候補と最終的にどうなったかに注意して、英文を読む。
	第 2 回考査				
	7 8	Applause vol.4 Lesson 1~4 Clues to Reading S L1～3		12	英語を正しく読む力を伸ばす
		Applause vol.4 Lesson 5~8 Clues to Reading S L4～6		12	英語を正しく読む力を伸ばす
後期	9	Applause vol.4 Lesson 9~12 Clues to Reading S L7～9		12	英語を正しく読む力を伸ばす
		第 3 回考査			
	10	Applause vol.4 Lesson 13~16 Clues to Reading S L10～12		12	英語を正しく読む力を伸ばす
		Applause vol.4 Lesson 17~20 Clues to Reading S L13～15		12	英語を正しく読む力を伸ばす
	11	大学入試センター試験対策演習		60	入試標準レベルの英文読解力を養成する
		第 4 回考査			
	12	大学入試センター試験対策演習		12	入試標準レベルの英文読解力を養成する
		総時間数			156

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ (C 英語Ⅲ・L)	3	普通科理系 理数科	3
履修形態	授 業 形 態	指 導 者 名		
全	一斉授業・習熟度別授業	英語科		

教科書（発行所）	Grove English Communication Ⅲ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	英語長文演習 Applause vol.4（美誠社）

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。		
学習のねらい	・事物に関する紹介や報告，対話や討論などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。 ・説明，評論，物語，随筆などについて，速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また，聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ・聞いたり読んだりしたことを，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて話し合うなどして結論をまとめる。 ・聞いたり読んだりしたことを，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，まとまりのある文章を書く。		
定期考査	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に，問題集，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第 1 回	Grove English Communication Ⅲ： Lesson 14~17
		第 2 回	Grove English Communication Ⅲ： Lesson 18~21
		第 3 回	英語長文演習 Applause vol.4 ： Lesson 1~12
		第 4 回	英語長文演習 Applause vol.4 ： Lesson 13~20
定期考査	年度末考査		
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は，関心・意欲・態度，表現の能力，理解の能力，知識・理解の 4 項目とする。 ○ 具体的な評価は，定期考査を中心に，授業の中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生から アドバイス (予習・復習の方法， 授業の受け方，ノートの 取り方など)	徹底的に反復学習する。予習・授業・復習という学習スタイルが入試を攻略する英語力につながります。すぐに辞書に頼らずに，入試さながらに，まずは，自力のみで英文を読む習慣をつけましょう。速読，パラグラフリーディングなど，多量の英文を速く正確に読み，要旨をつかむ練習をしていきましょう。		

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	L14	The Rose Valley	3	バラの谷と呼ばれる地域がなぜバラの栽培に適しているかに注意して、英文を読む。 バラの油がなぜ「液体の金」と呼ばれているか意識して英文を読む。
		L15	The French School Lunch	3	フランス人にとって、昼食はどのようなものかに注意して、英文を読む。 フランス人は給食で何を食べるか意識して英文を読む。
		L16	EcoScraps	3	エコスクラップ社の販売手順に注意して、英文を読む。 ダンがエコスクラップ社のアイデアを思いついたのはいつ、どこだったか意識して英文を読む。
	5	L17	Lost Olympic Sports	3	オリンピックで除外された 3 つのスポーツとその理由に注意して、英文を読む。
		第 1 回考査			
		L18	Afghan children Dream of Musical Future	3	アフガニスタン国立音楽学校が設立された経緯に注意して、英文を読む。 そこで学ぶ 2 人の生徒が置かれた状況を意識して英文を読む。
	6	L19	Sleep Position And Personality	3	寝るときの 6 つの姿勢と性格の傾向に注意して、英文を読む。
		L20	El Anatsui	3	エル・アナツイの作品の特徴に注意して、英文を読む。 なぜ彼が作品にピンのふたや飲み物のシールを使うかに意識して英文を読む。
		L21	A Name for My Cat	3	猫の名前の候補と最終的にどうなったかに注意して、英文を読む。
	7	第 2 回考査			
		Applause vol.4 Lesson 1~4			英語を正しく読む力を伸ばす
		Applause vol.4 Lesson 5~8			英語を正しく読む力を伸ばす
後期	8	Applause vol.4 Lesson 9~12			英語を正しく読む力を伸ばす
		第 3 回考査			
		Applause vol.4 Lesson 13~16			英語を正しく読む力を伸ばす
	9	Applause vol.4 Lesson 17~20			英語を正しく読む力を伸ばす
		大学入試センター試験対策演習			入試標準レベルの英文読解力を養成する
		第 4 回考査			
	10	大学入試センター試験対策演習			入試標準レベルの英文読解力を養成する
		総時間数			117
	11				

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ（R）	4	普通科理系 理数科	3
履修形態		授 業 形 態	指 導 者 名	
全		一斉授業・習熟度別授業	英語科	

教科書（発行所）	Grove English Communication Ⅲ（文英堂）
教科書以外の教材（発行所）	NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE 4（Z会出版） Heart and Mind [Complete] 感動する心と考える知性（-est出版）

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。		
学習のねらい	・事物に関する紹介や報告，対話や討論などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。 ・説明，評論，物語，随筆などについて，速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また，聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ・聞いたり読んだりしたことを，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて話し合うなどして結論をまとめる。 ・聞いたり読んだりしたことを，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，まとまりのある文章を書く。		
定期考査	出題方針	教科書・副教材の内容を中心に，問題集，教材プリントなどから出題する。	
	範囲 （予定）	第1回	NEW TREASURE： Lesson 11， Heart and Mind：Lesson 1～8
		第2回	Heart and Mind：Lesson 9～18
		第3回	Heart and Mind: Lesson 19～22 大学入学対策演習
		第4回	大学入学対策演習
		年度末考査	
評価の観点・ 評価の方法	○ 評価の観点は，関心・意欲・態度，表現の能力，理解の能力，知識・理解の4項目とする。 ○ 具体的な評価は，定期考査を中心に，授業の中での考察，ノート，小テスト，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。また，自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生から アドバイス （予習・復習の方法， 授業の受け方，ノート の取り方など）	徹底的に反復学習する。予習・授業・復習という学習スタイルが入試を攻略する英語力につながります。すぐに辞書に頼らずに，入試さながらに，まずは，自力のみで英文を読む習慣をつけましょう。速読，パラグラフリーディングなど，多量の英文を速く正確に読み，要旨をつかむ練習をしていきましょう。		

年間授業計画表						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	NTI	オーストラリア先住民の生活事情について学ぶ	8	様々な形の仮定法	
		1	愛	2	論理的思考力を高める	
		2	愛	2	論理的思考力を高める	
		3	幸福	2	論理的思考力を高める	
		4	幸福	2	論理的思考力を高める	
		5	幸福	2	論理的思考力を高める	
		6	結婚	2	論理的思考力を高める	
		5	7	結婚	2	論理的思考力を高める
			8	結婚	2	論理的思考力を高める
		第1回考査				
		6	9	絶望	2	論理的思考力を高める
			10	絶望	2	論理的思考力を高める
			11	絶望	2	論理的思考力を高める
			12	新世界	2	論理的思考力を高める
			13	新世界	2	論理的思考力を高める
			14	新世界	2	論理的思考力を高める
			15	コントロール	2	論理的思考力を高める
			16	コントロール	2	論理的思考力を高める
	7	17	対立	2	論理的思考力を高める	
		18	対立	2	論理的思考力を高める	
		第2回考査				
		8	19	情	3	論理的思考力を高める
	20		情	3	論理的思考力を高める	
	9		大学入試対策演習	8	英語を正しく読む力を伸ばす	
後期	10		大学入試対策演習	29	入試標準レベルの英文読解力を養成する	
		第3回考査				
			大学入試対策演習	27	国公立二次試験レベルの英文読解力を養成する	
	第4回考査					
	12		大学入試対策演習	2	国公立二次試験レベルの英文読解力を養成する	
		総時間数			117	

